

オルガノ株式会社 2019年3月期決算説明会

(証券コード: 6368)

2019年5月15日

目 次

1. 2019年3月期実績
2. 2020年3月期計画
3. 中長期経営計画
4. 会社概要

目 次

1. 2019年3月期実績
2. 2020年3月期計画
3. 中長期経営計画
4. 会社概要

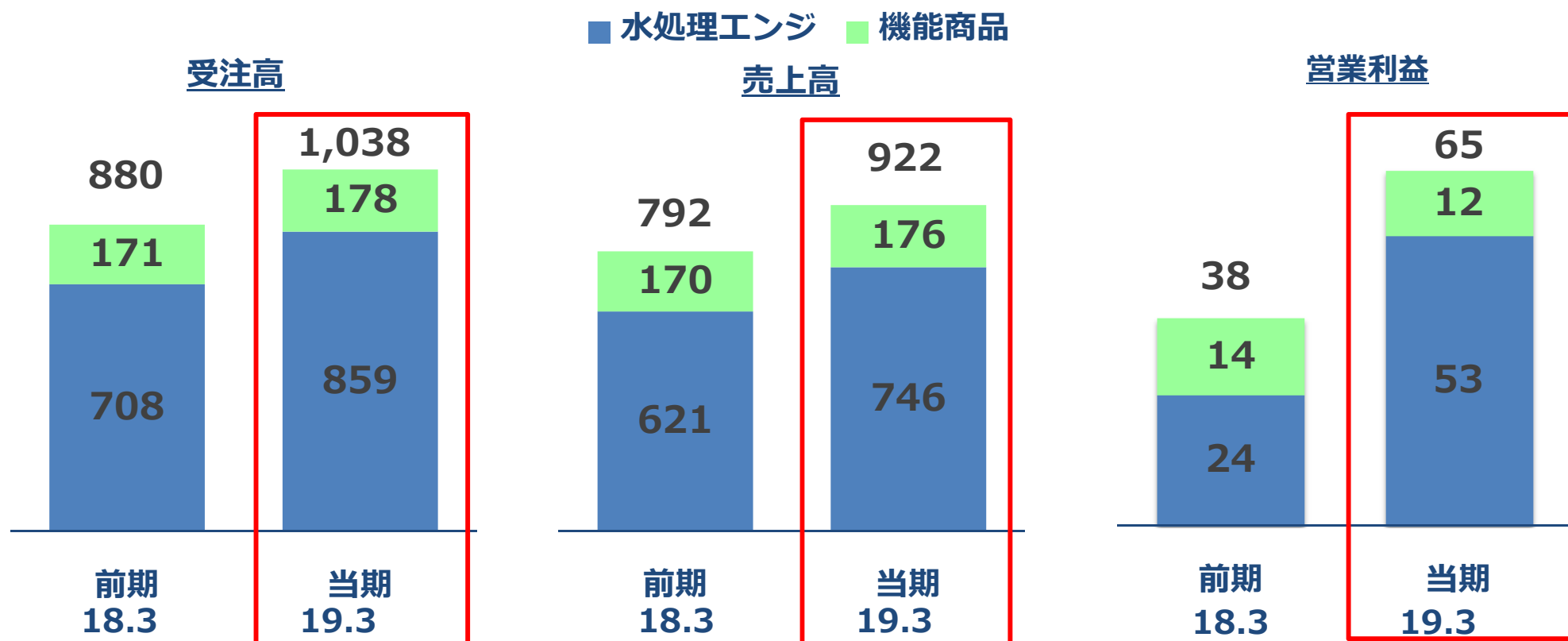
2019年3月期実績：概況

受注高：日本・台湾での大型半導体案件の受注増により拡大

売上高：電子産業中心にプラント・ソリューションとも増加

営業利益：プラントの収益性改善・ソリューション拡大が貢献

(単位：億円)



2019年3月期実績：損益計算書

単位：億円	2018.3 実績	2019.3 予想	2019.3 実績	前期比	予想比
受注高	880	980	1,038	+ 157	+ 58
売上高	792	910	922	+ 130	+ 12
売上総利益 (%)	191 (24.2%)	212 (23.3%)	229 (24.8%)	+ 37 (+ 0.6pt)	+ 17 (+ 1.5pt)
販管費	153	157	163	+ 10	+ 6
営業利益 (%)	38 (4.8%)	55 (6.0%)	65 (7.1%)	+ 27 (+ 2.3pt)	+ 10 (+ 1.1pt)
経常利益	39	54	65	+ 26	+ 11
親会社株主に 帰属する 当期純利益	27	37	44	+ 16	+ 7

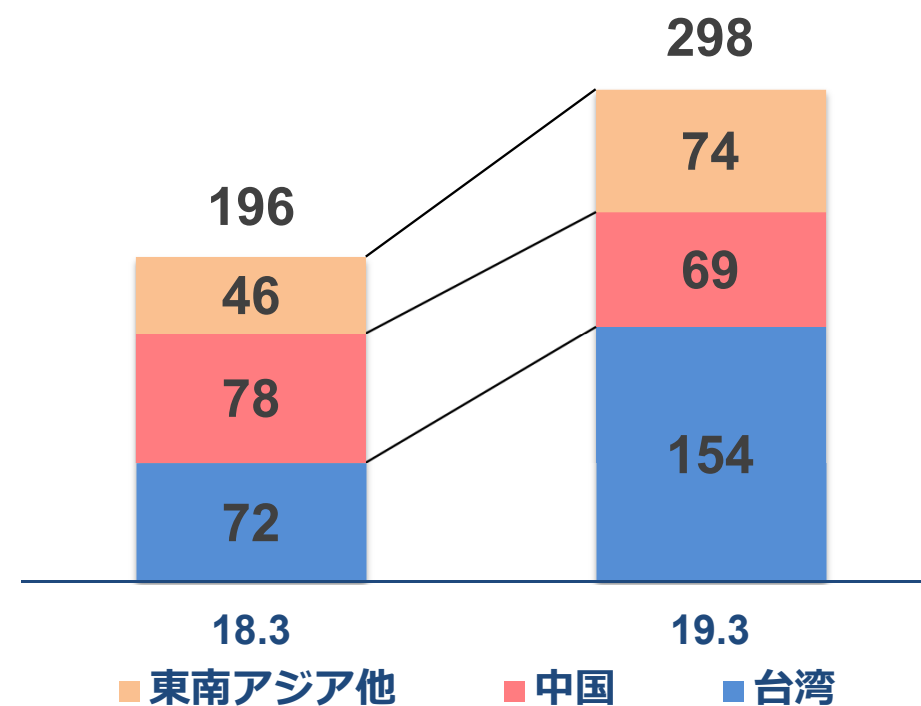
2019年3月期実績：地域別受注高

国内：半導体など電子産業のプラント・ソリューション中心に大幅伸長
 海外：大型の半導体プロジェクトを受注した台湾の回復が大きく寄与
 東南アジアでも電子産業・電力向け的大型プロジェクトを受注

国内・海外別 受注高



海外地域別 受注高 (単位：億円)



2019年3月期実績：地域別売上高

国内：電子・一般ともプラント・ソリューションが好調に推移

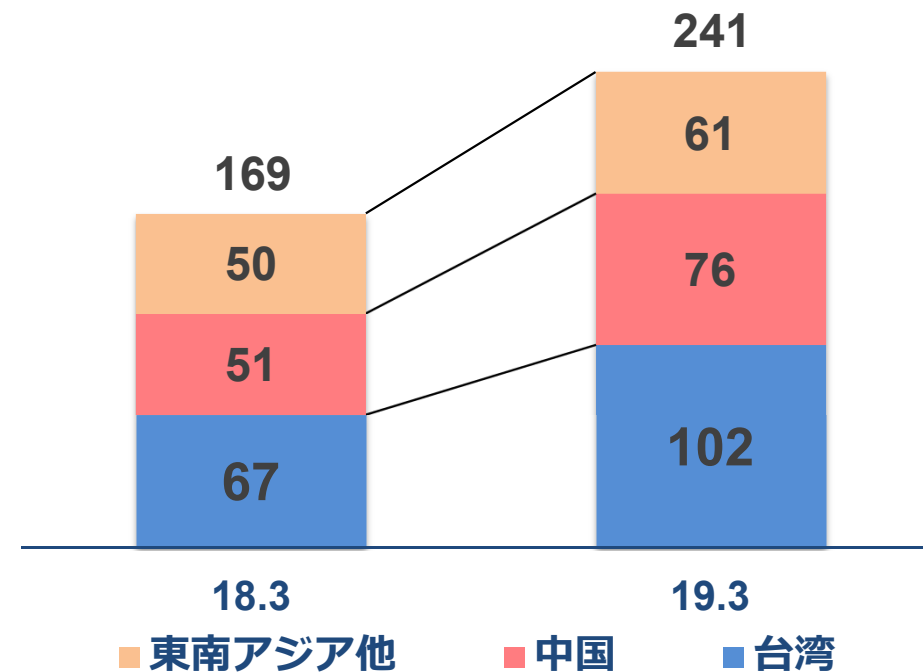
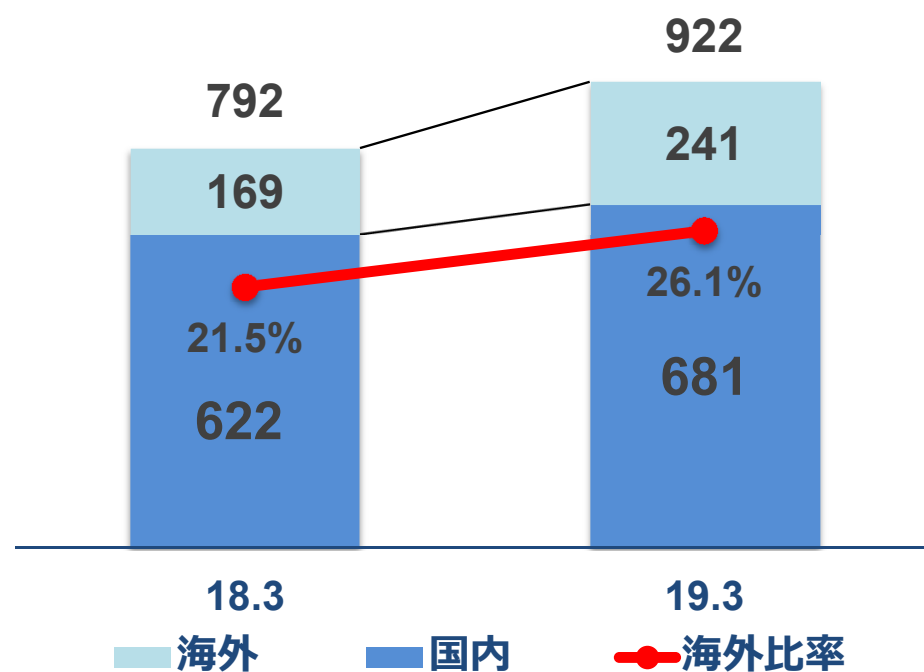
海外：台湾・中国は大型プロジェクトの売上進捗が寄与

東南アジアでも電子産業・電力向けの売上が拡大

(単位：億円)

国内・海外別売上高

海外地域別売上高

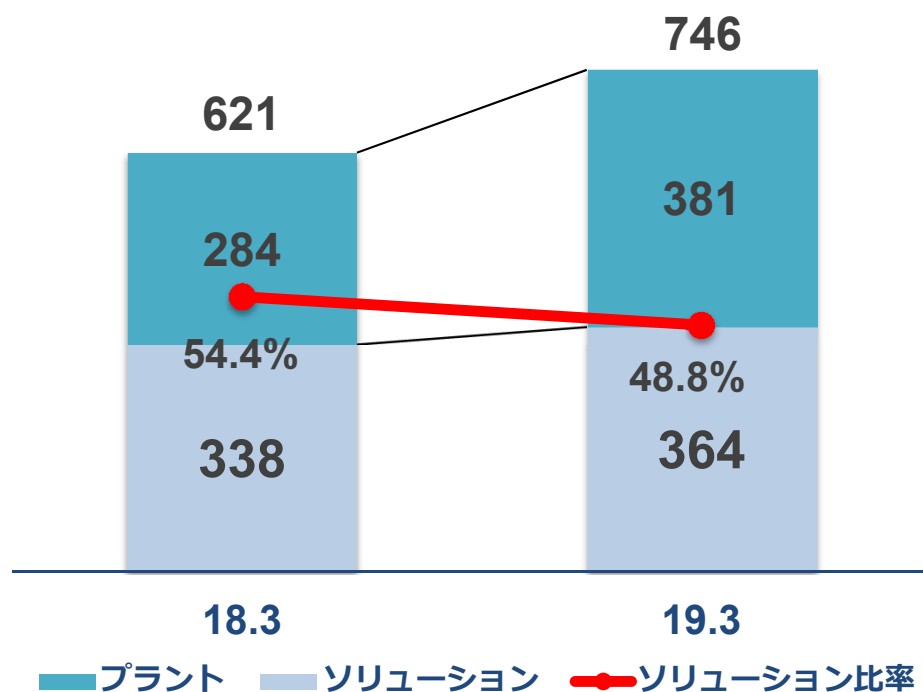


2019年3月期実績：部門・顧客別売上高(水処理エンジニア)

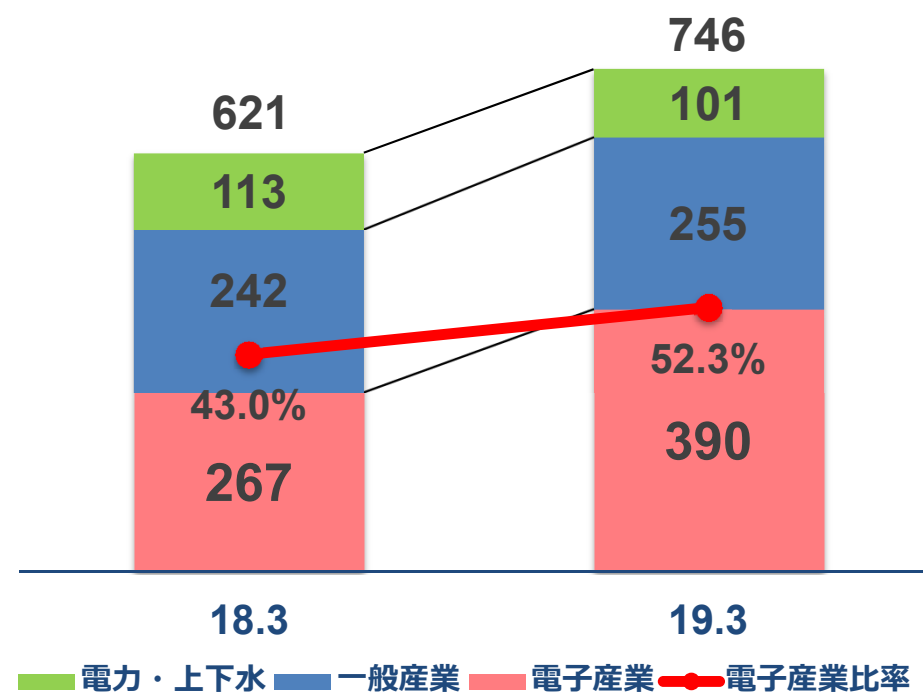
- プラントは日・中・台の大型半導体案件の売上が拡大
- ソリューションは電子産業に加え国内の一般産業も好調
- 電力・上下水は海外で増加も国内は低調に推移

(単位：億円)

水エンジニア事業：部門別売上高



水エンジニア事業：顧客別売上高



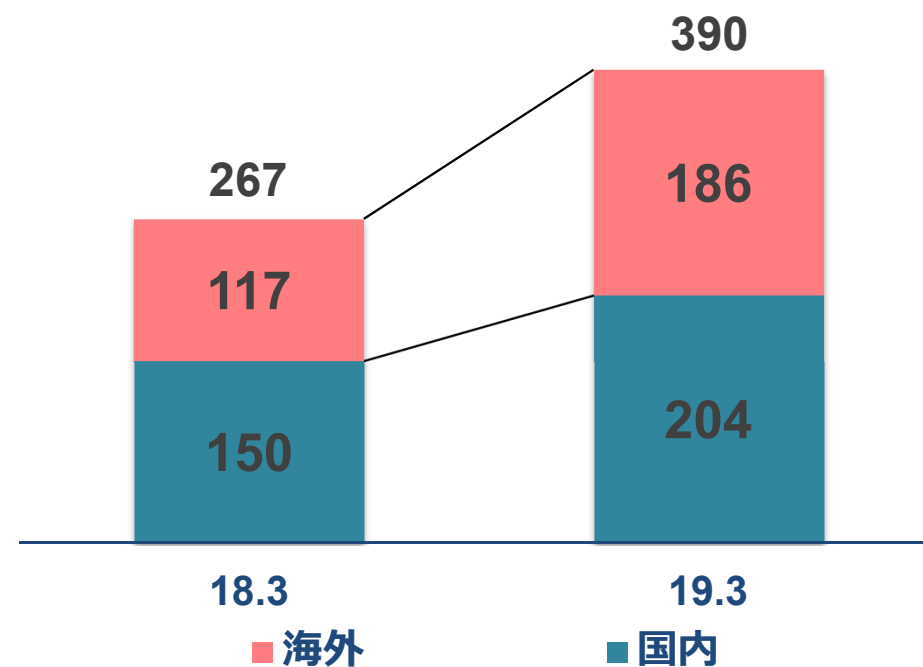
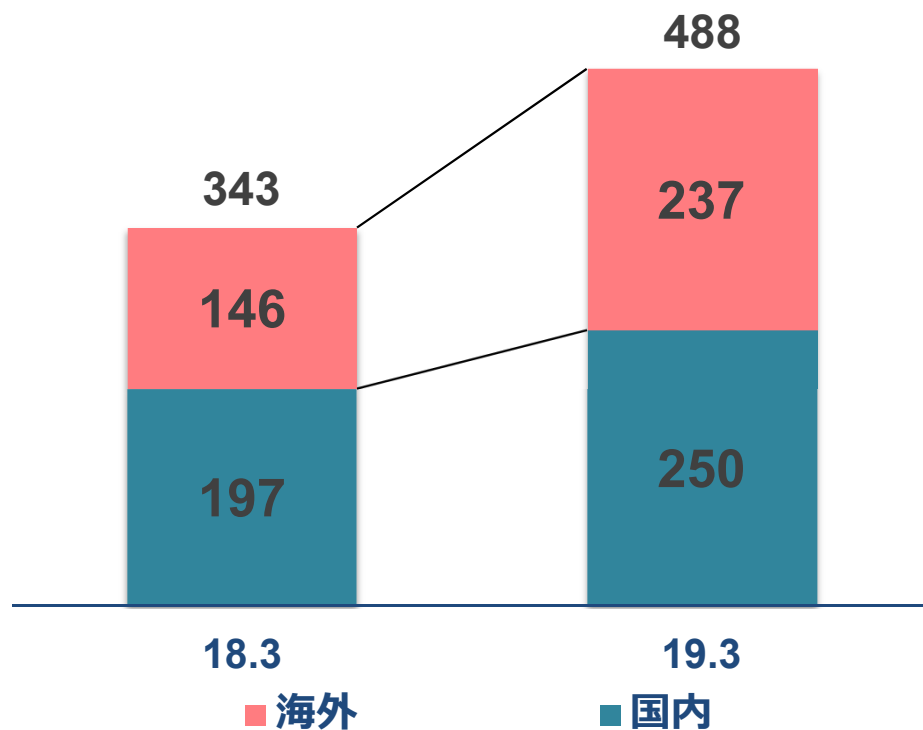
2019年3月期実績：電子産業 受注・売上（水処理エンジニア）

受注高：海外の拡大は台湾の半導体投資回復が大きく寄与

売上高：プラントの増加に加え、ソリューションも国内外で拡大

電子産業向け 受注高

電子産業向け 売上高 (単位：億円)

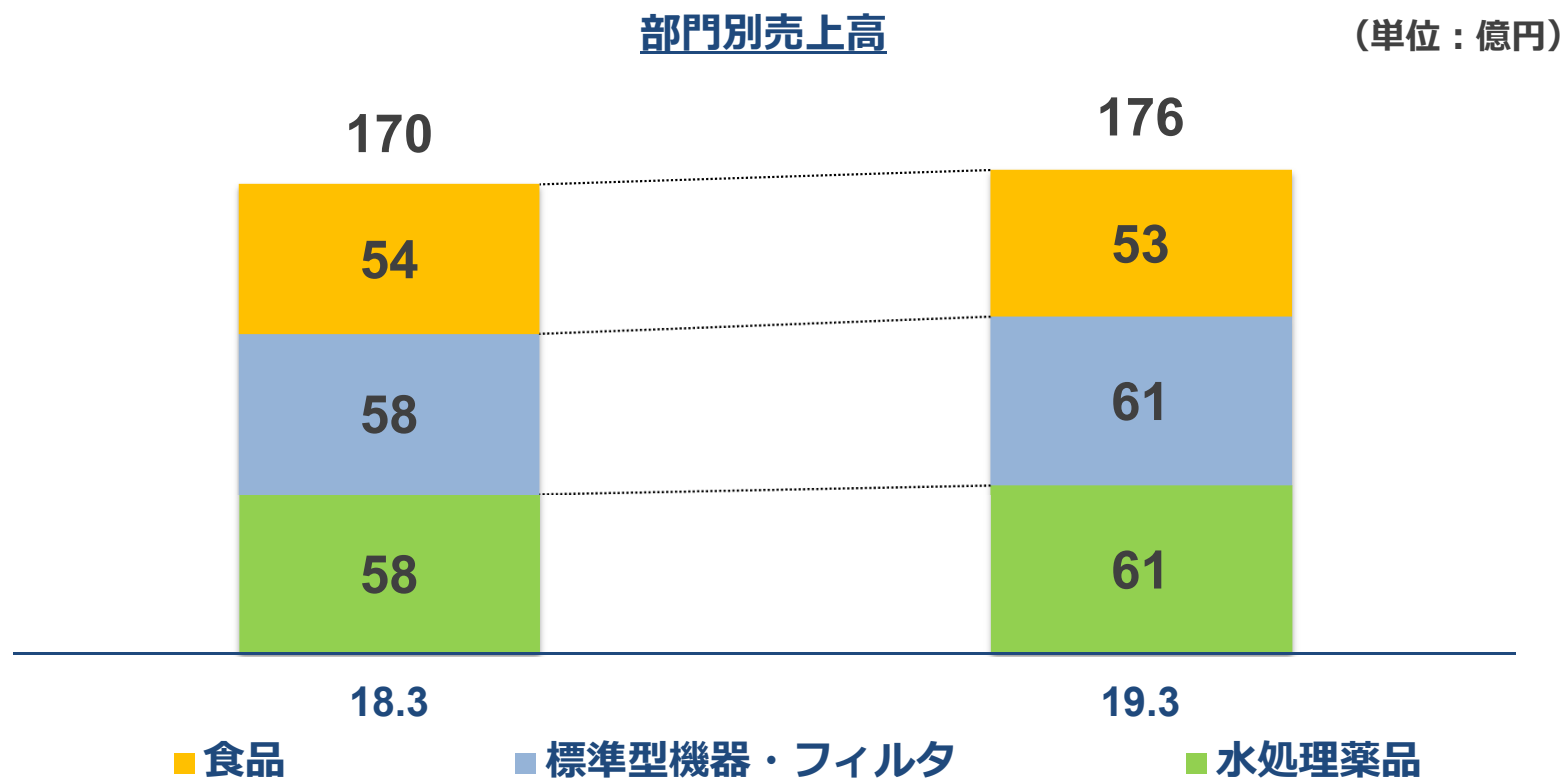


2019年3月期実績：部門別売上高（機能商品）

標準型機器：国内での新商品投入・中国での販売開始が寄与

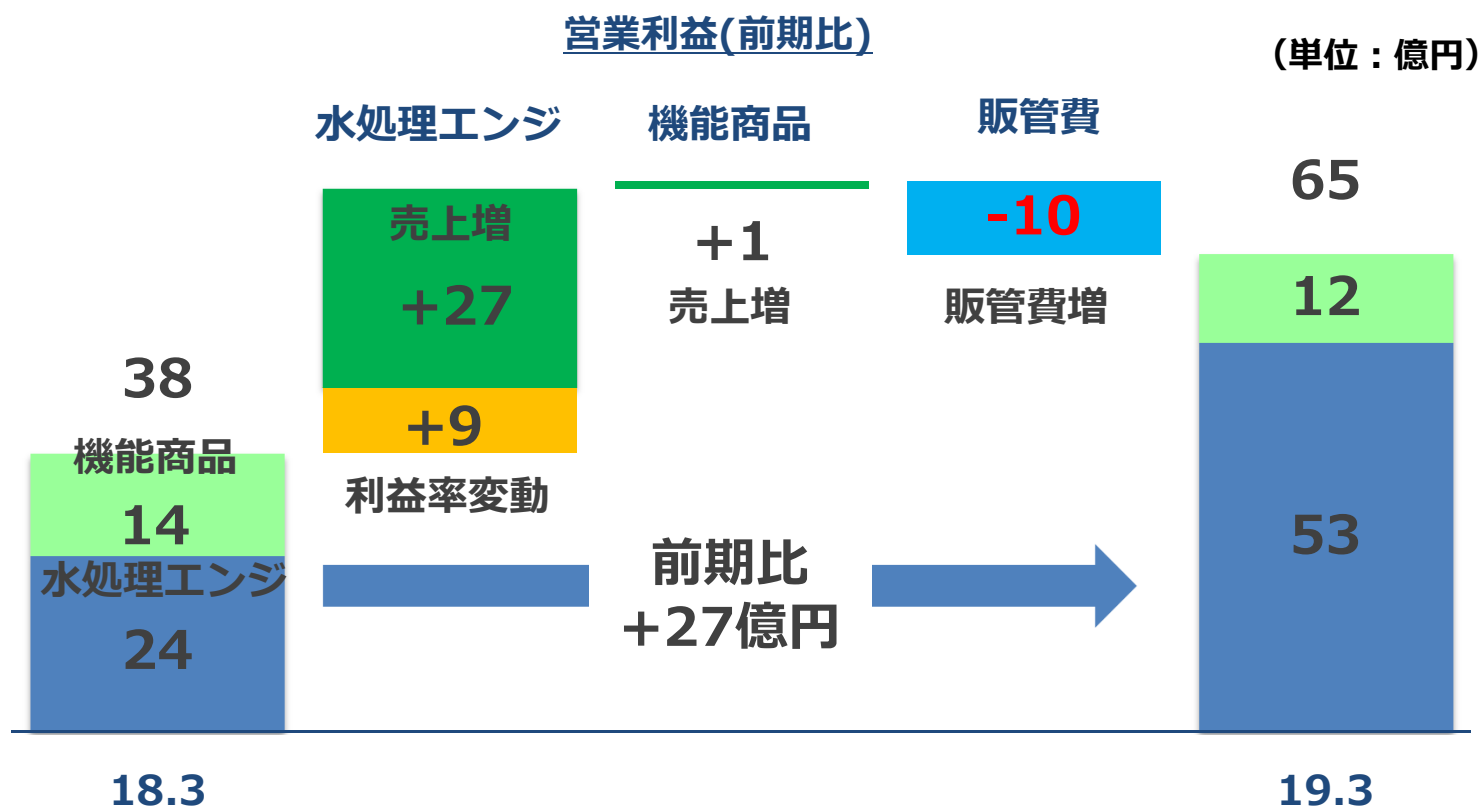
水処理薬品：電子産業向けの販売増・海外売上の拡大により伸長

食品加工材：売上は若干の減少も堅調に推移



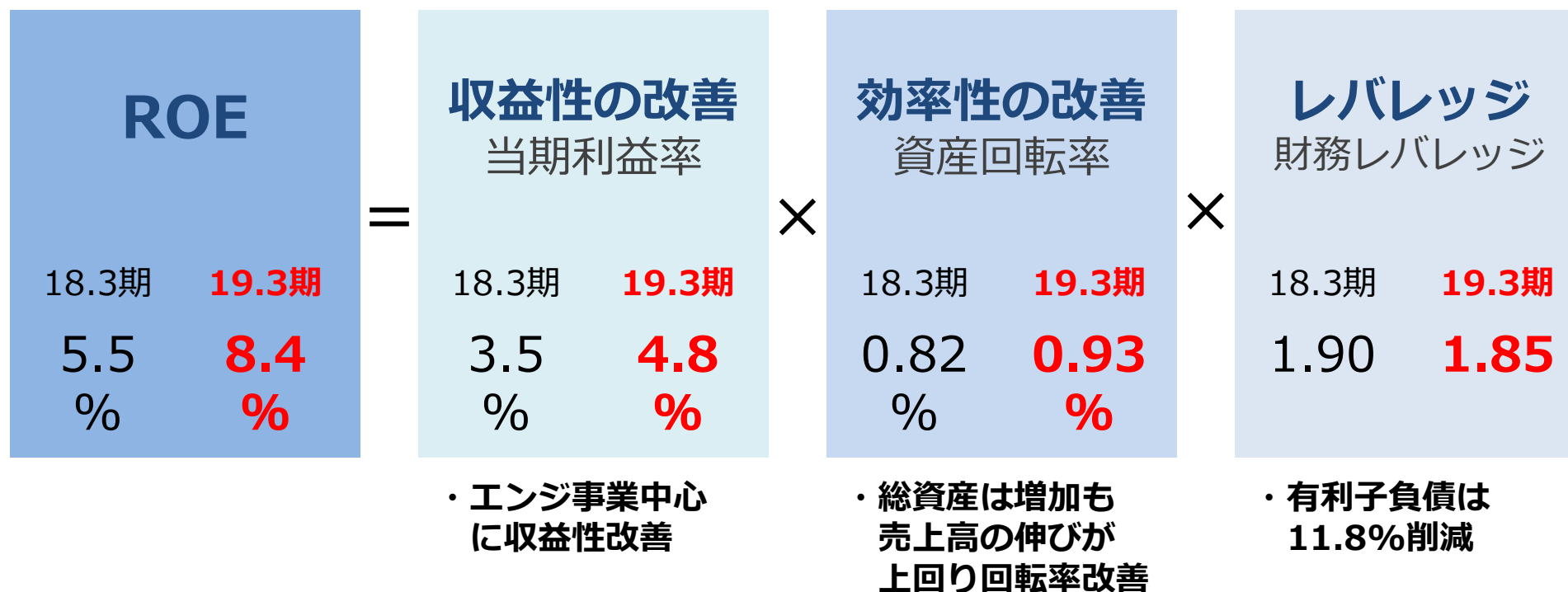
2019年3月期実績：営業利益分析

- 大型案件の売上増に加え、プロジェクトの採算性改善とソリューション拡大で利益率改善、大幅な増益を達成
- 販管費は新商品の開発費用や営業・生産体制の強化により増加



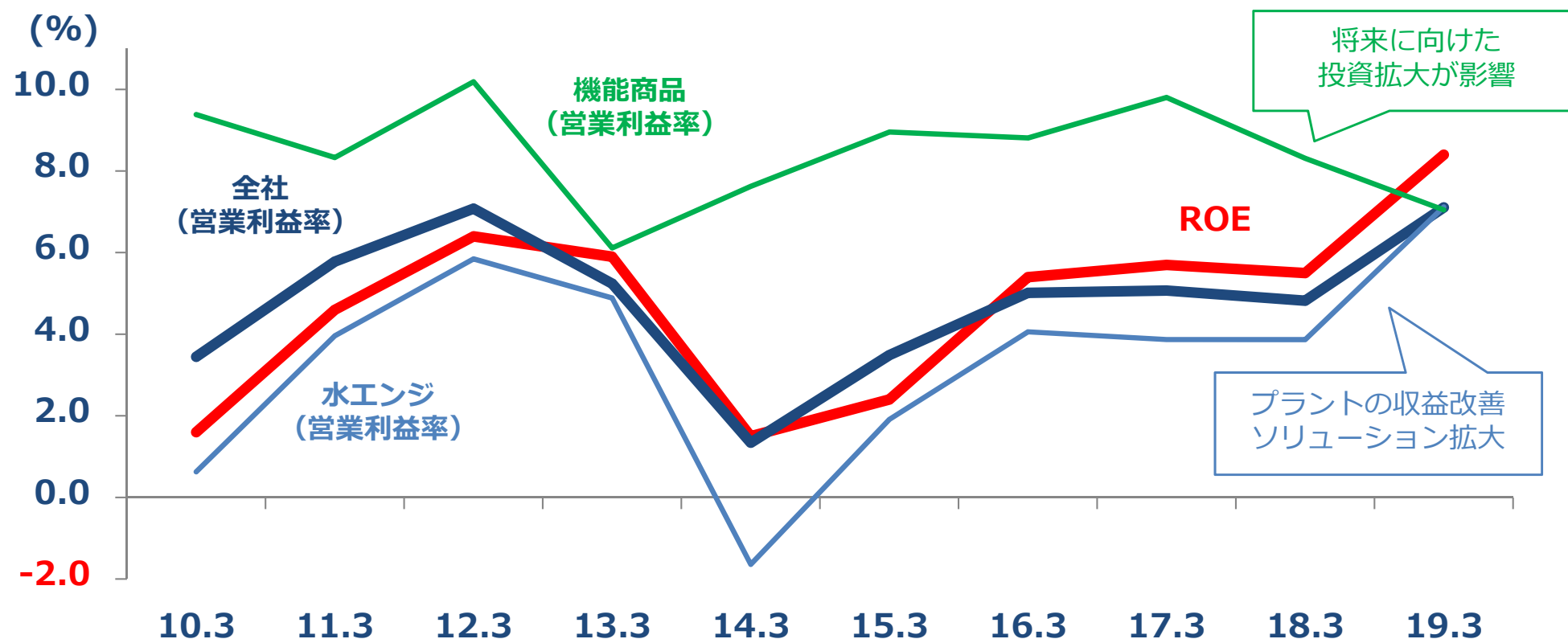
2019年3月期実績：ROE分析(1)

- 売上の拡大・収益性の改善により、想定株主資本コストを上回るROE8.4%を達成
- 営業債権の回収進み営業CFも大幅に改善（+56億）有利子負債の削減も進む



2019年3月期実績：ROE分析(2)

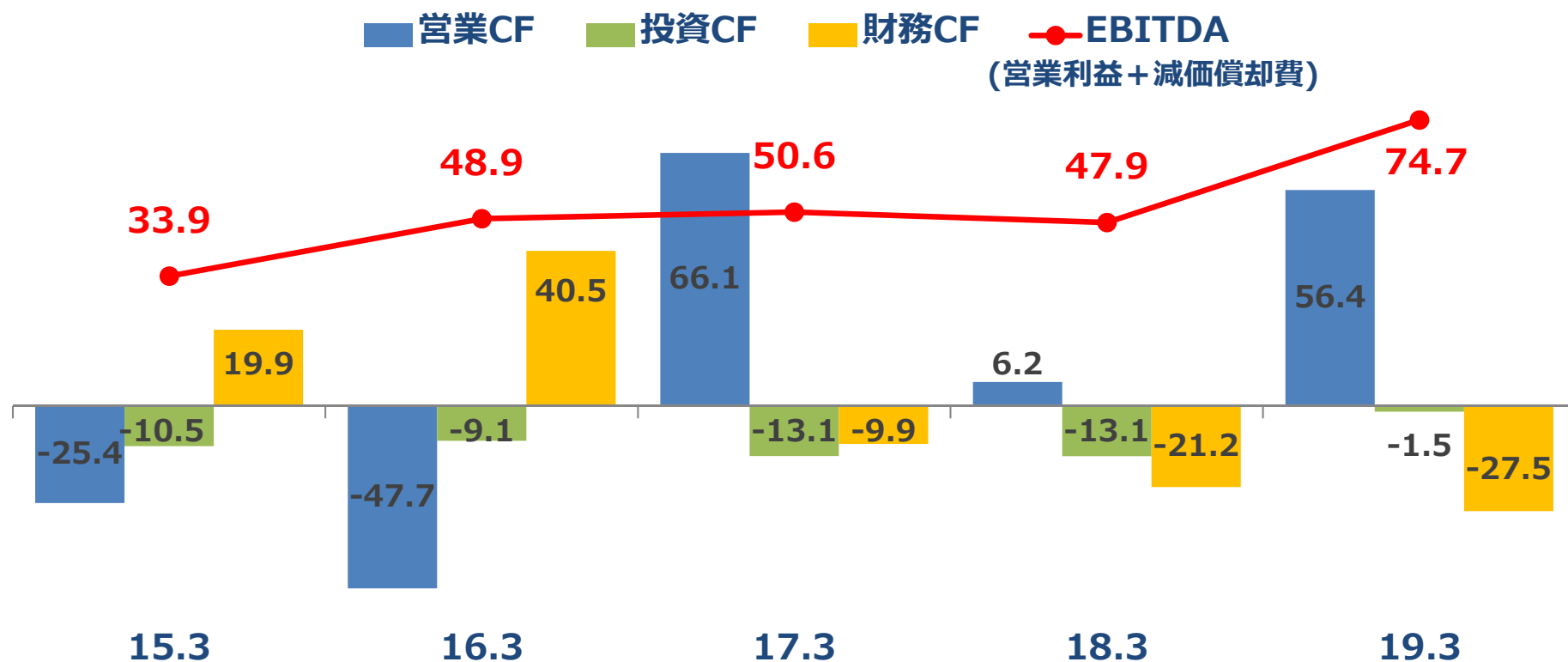
- ROE推移は営業利益率と同様の推移
- 19年3月期のROE改善はプラント収益改善とソリューション拡大による水エンジ事業の営業利益率が寄与



2019年3月期実績：キャッシュフローの状況

- 当社CFは業績の動向に加え、大型プロジェクトの工事進捗・工事代金の回収状況が増減に大きく影響
- 19年3月期は工事代金の回収が進み営業CFが改善、有利子負債の削減も進む

(単位：億円)



2019年3月期実績：主な指標

	2018年3月期	2019年3月期
設備投資額 (百万円)	644	635
技術研究費 (百万円)	1,776	1,823
減価償却費 (百万円)	972	920
有利子負債 (百万円)	15,484	13,659
従業員数 (人)	2,179	2,186
年間配当金 (円)	53	73
ROE (%)	5.5	8.4

目 次

1. 2019年3月期実績
- 2. 2020年3月期計画**
3. 中長期経営計画
4. 会社概要

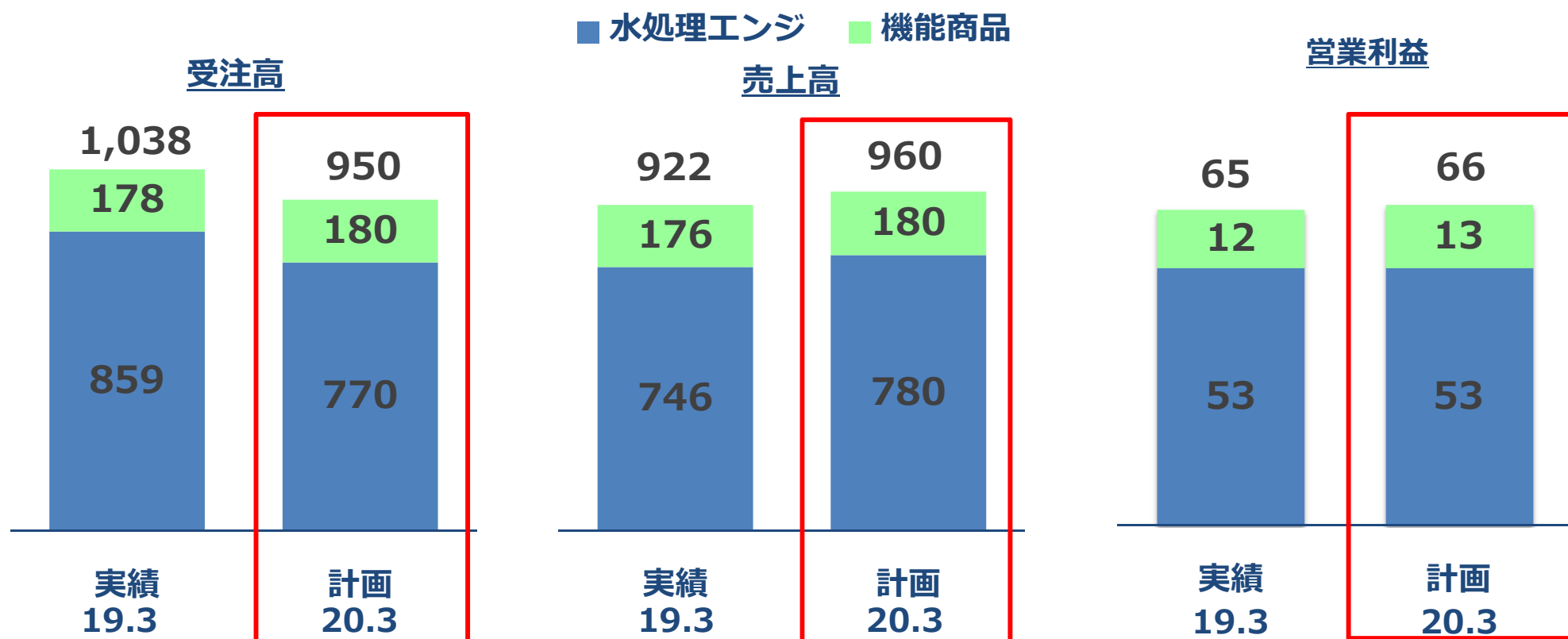
2020年3月期計画：概況

受注高：先行きの不透明感強く、電子産業分野の減少を想定

売上高：前期までに受注した案件の工事進捗による売上増を計画

営業利益：売上増も開発投資等の増加で前期並を想定

(単位：億円)



2020年3月期計画：損益計算書

単位：億円	2019.3 実績	2020.3 計画	前期比
受注高	1,038	950	- 88
売上高	922	960	+ 37
売上総利益 (%)	229 (24.8%)	234 (24.4%)	+ 4 (-0.4pt)
販管費	163	168	+ 4
営業利益 (%)	65 (7.1%)	66 (6.9%)	+ 0 (-0.2pt)
経常利益	65	65	- 0
親会社株主に 帰属する 当期純利益	44	44	- 0

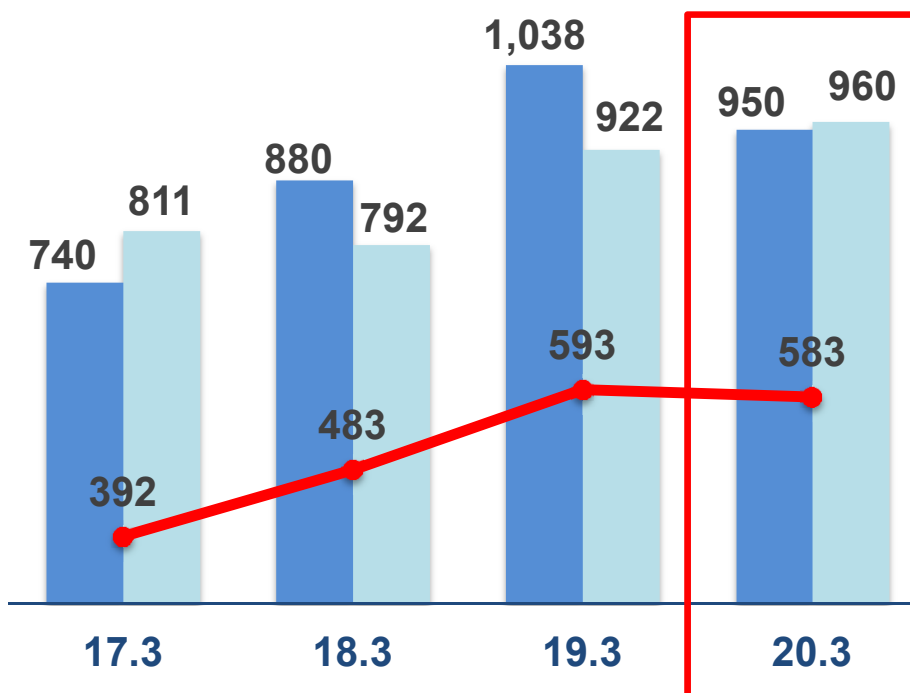
2020年3月期計画：受注高・売上高の推移

- 19年3月期は受注高・売上高とも過去最高を達成
- 翌期以降の売上となる受注残高は非常に高い水準
- 20年3月期は受注減も繰越案件の工事進捗で売上増を計画

(単位：億円)

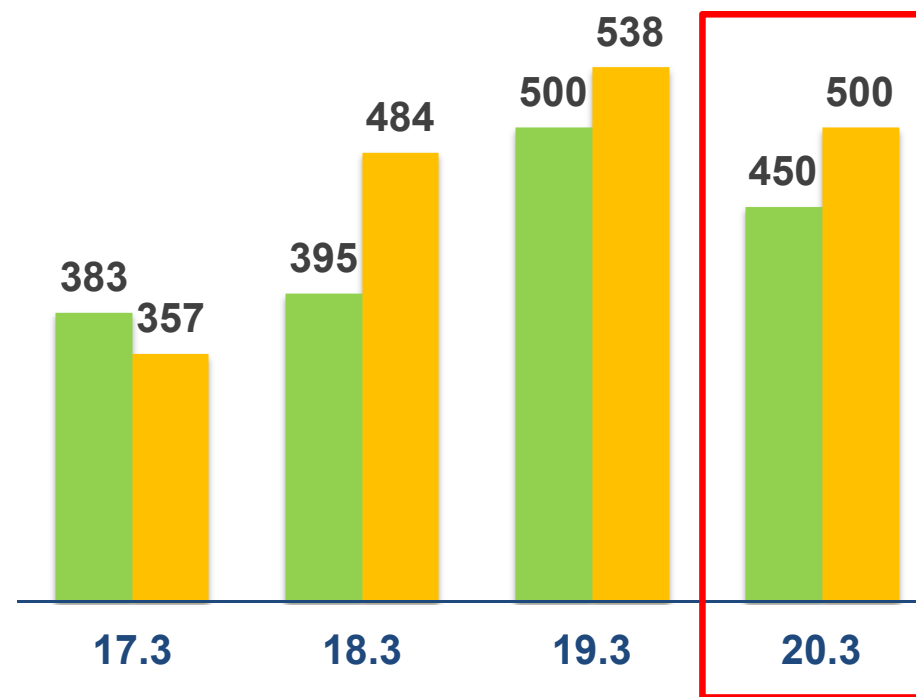
受注高・売上高推移

■ 受注高 ■ 売上高 ● 受注残高



上期・下期 受注高推移

■ 上期 ■ 下期



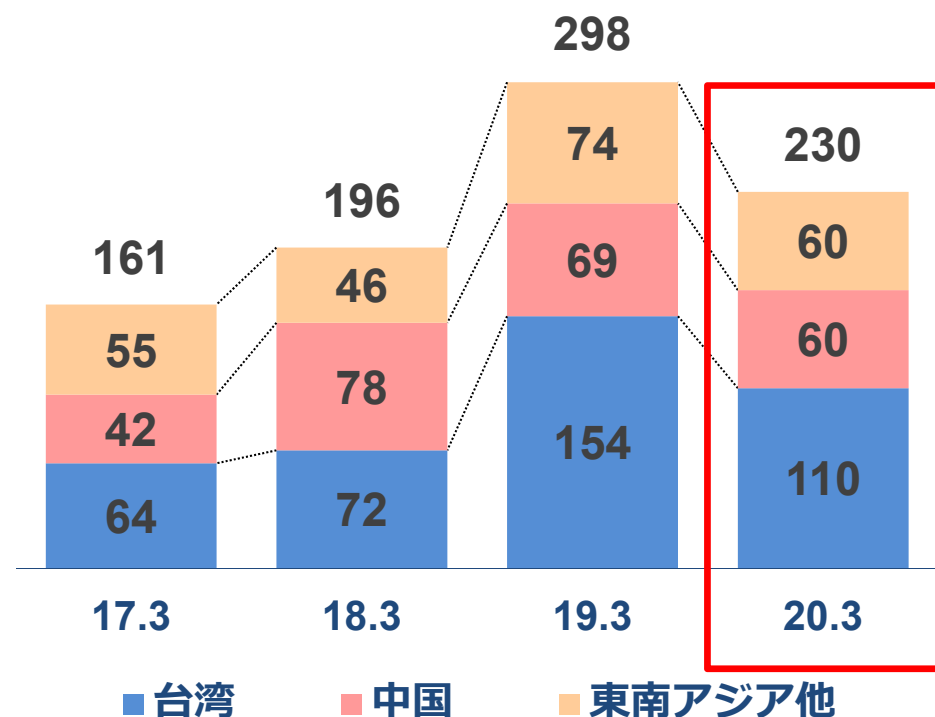
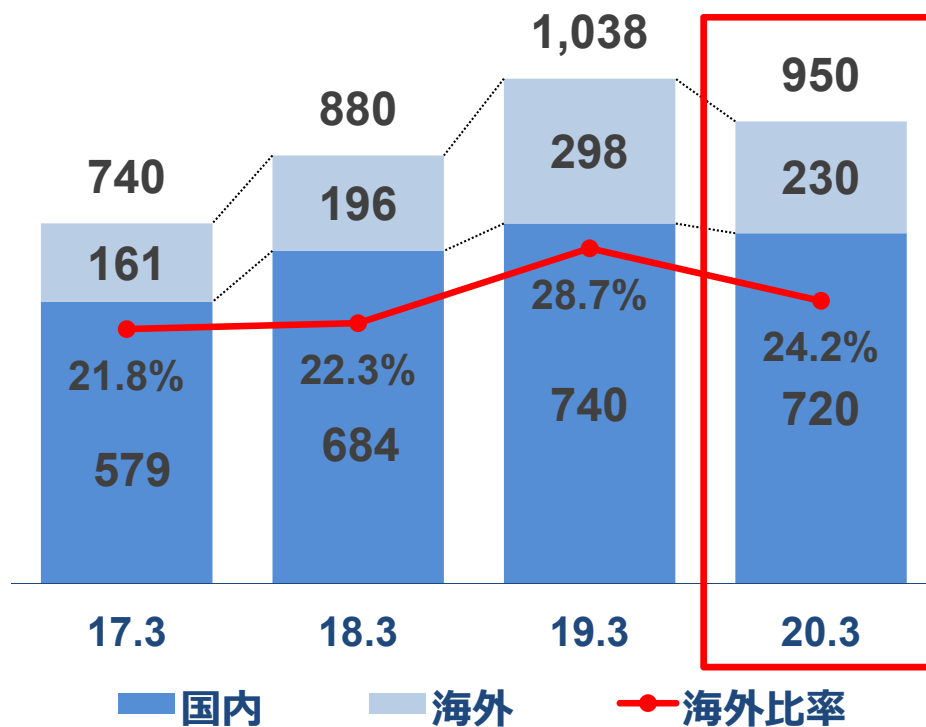
2020年3月期計画：地域別受注高

国内：先行きの不透明感強く、投資・生産の鈍化で減少見込む
 海外：前期大幅に拡大した台湾は一服感を想定

(単位：億円)

国内・海外別 受注高

海外 地域別 受注高



2020年3月期計画：地域別売上高

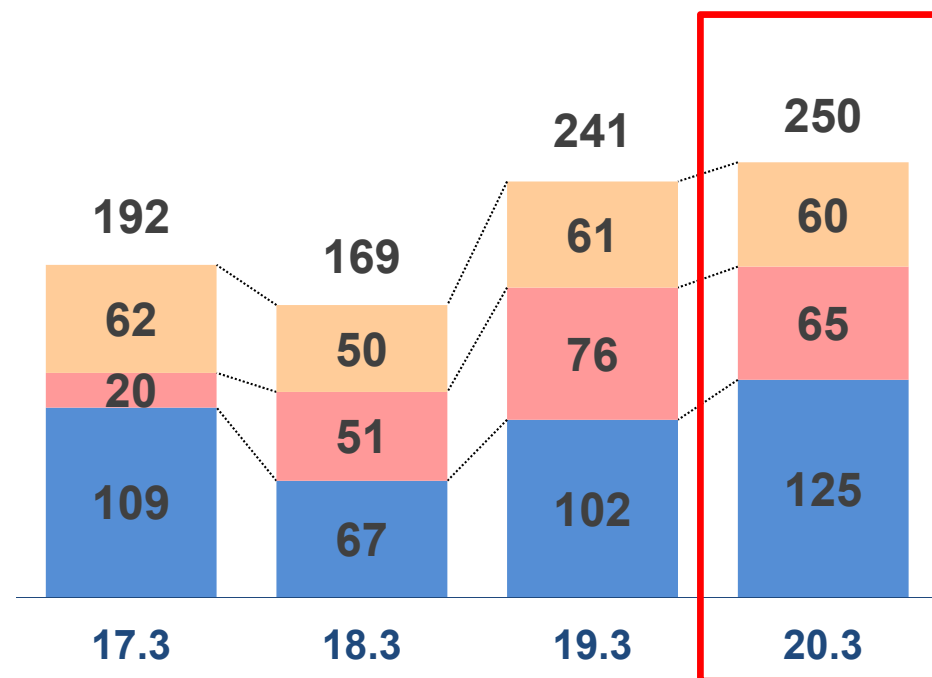
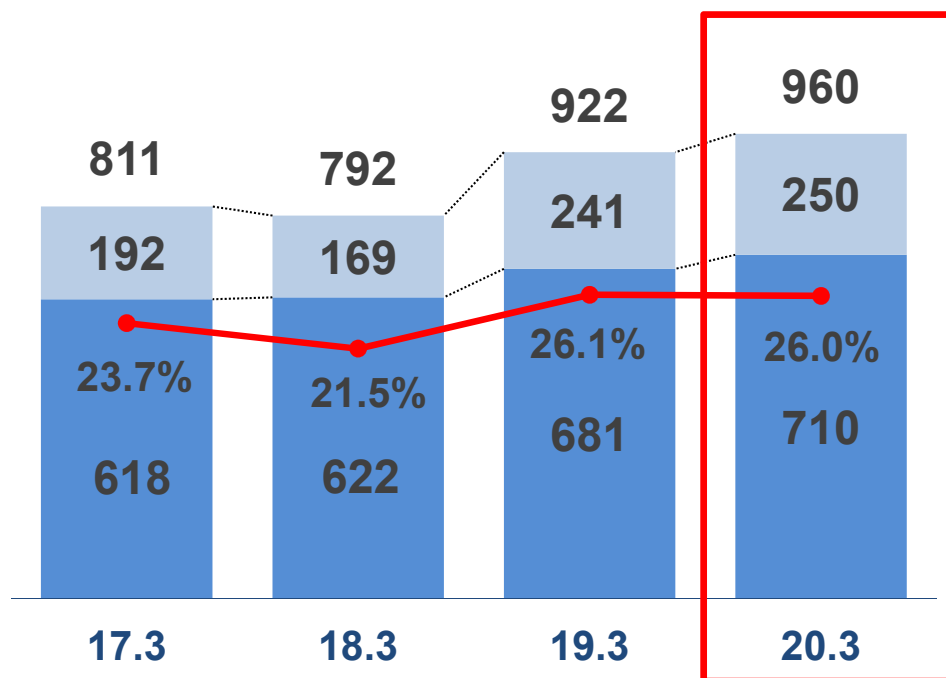
国内：半導体関連の繰越受注残案件の売上進捗を見込む

海外：中国・台湾は繰越受注残案件の売上で拡大を見込む

(単位：億円)

国内・海外別売上高

海外地域別売上高



■ 国内 ■ 海外 ● 海外比率

■ 台湾 ■ 中国 ■ 東南アジア他

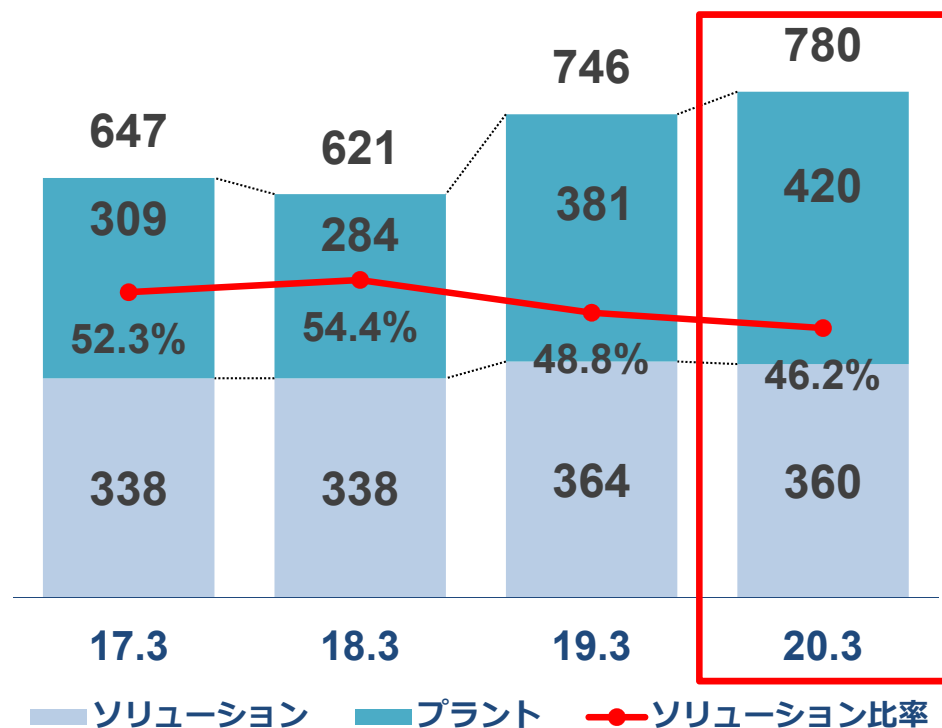
2020年3月期計画：部門・顧客別売上高（水処理エンジニア）

プラント：電子産業を中心に繰越受注残案件の売上進捗を計画

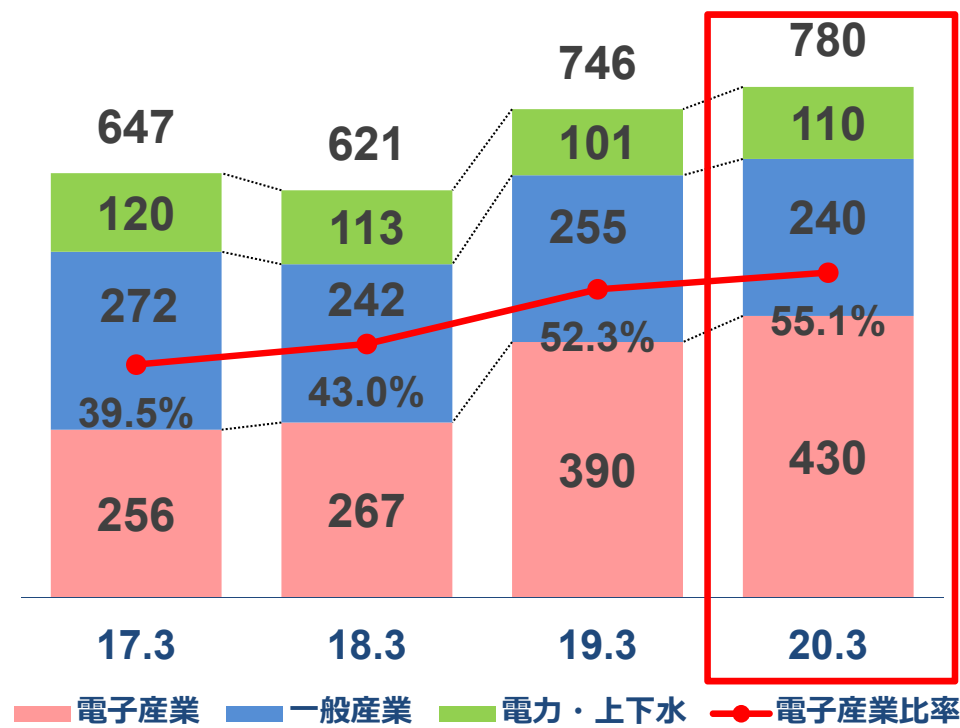
ソリューション：好調だった前期の反動もあり若干の減少を想定

(単位：億円)

水エンジニア事業：部門別売上高

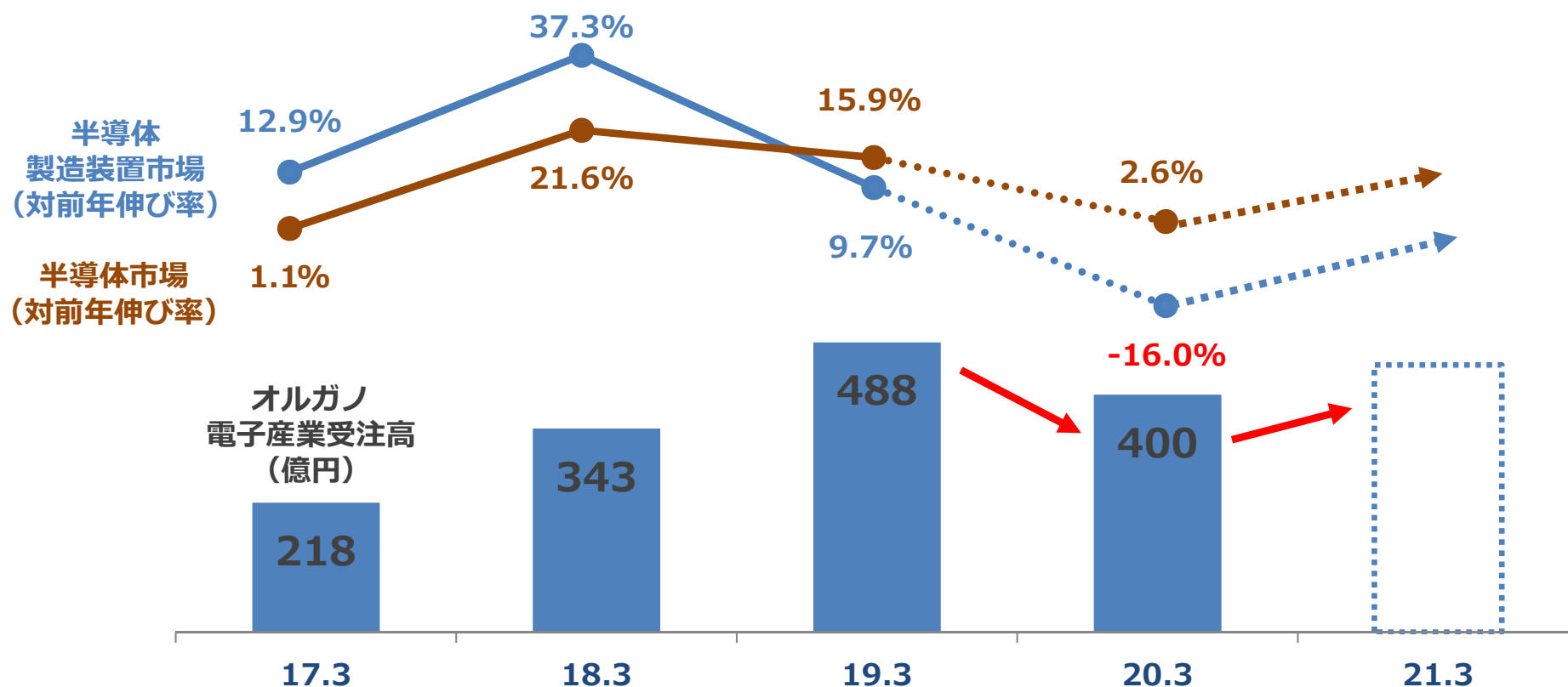


水エンジニア事業：顧客別売上高



電子産業市場動向

- 20年3月期は半導体市場・半導体製造装置市場とも減速を想定
- メモリ市場の回復・5G投資など2019年度後半からの回復を期待



出典：半導体市場(WSTS)・半導体製造装置市場(SEAJ)資料等をもとに当社推定

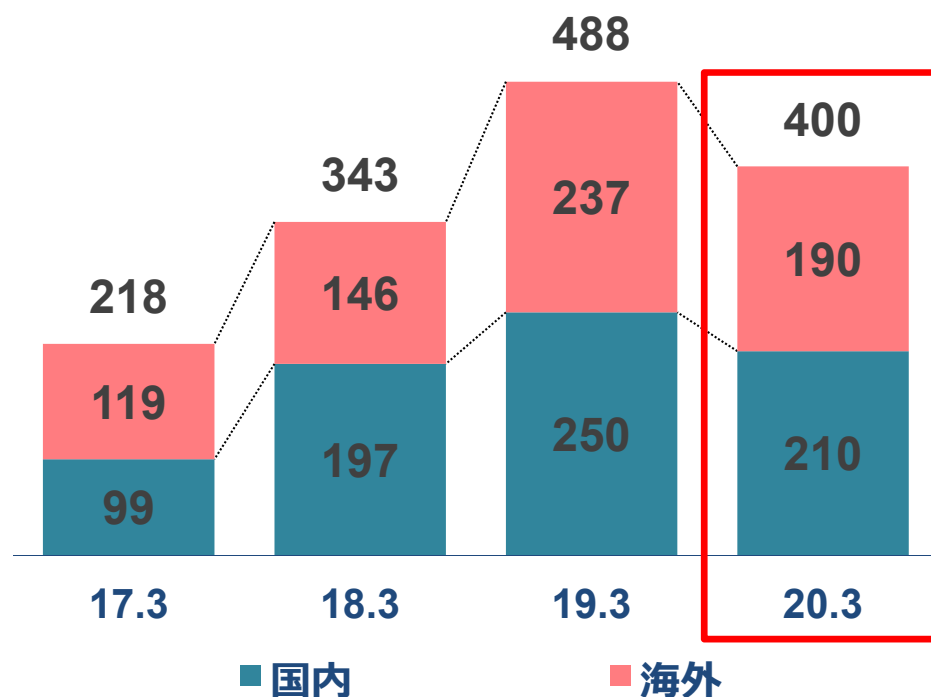
2020年3月期計画：電子産業 受注・売上（水処理エンジニア）

受注高：先行きの不透明感強く国内外とも投資の減速を想定

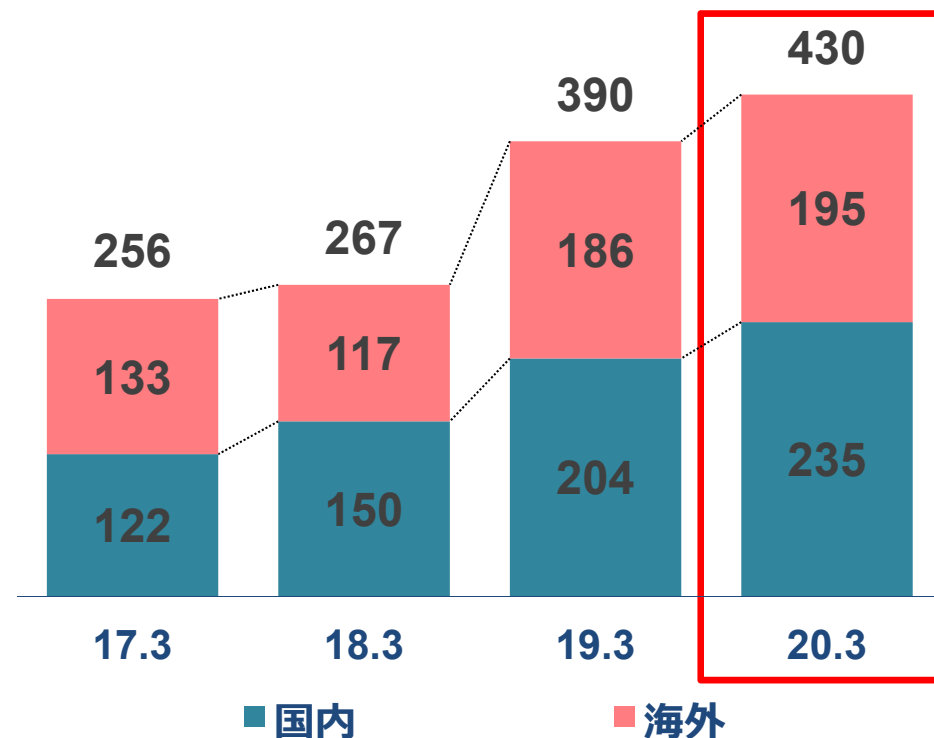
売上高：国内・海外とも繰越受注残案件の売上進捗を想定

(単位：億円)

電子産業向け 受注高



電子産業向け 売上高



2020年3月期計画：部門別売上高（機能商品事業）

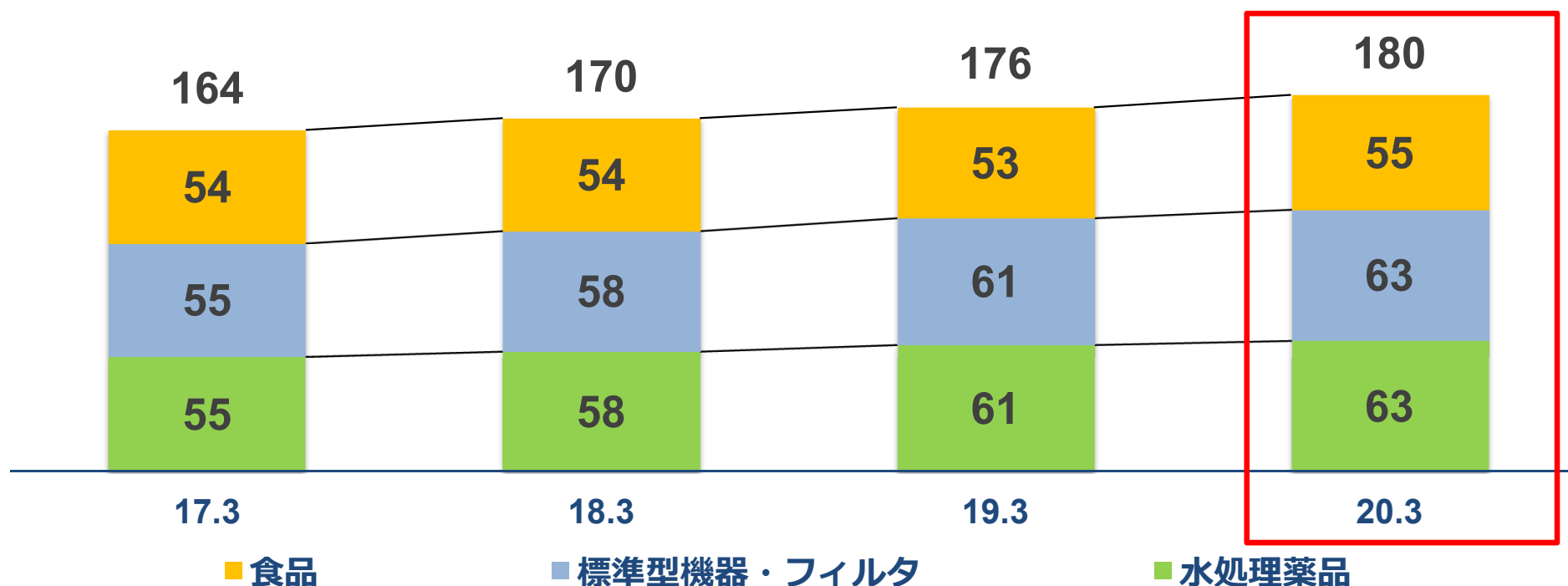
標準型機器：国内では新商品の投入を継続、中国の営業展開推進

水処理薬品：電子産業分野を中心に海外での拡販策を強化

食品加工材：増粒技術を核に販売数量の拡大を計画

（単位：億円）

部門別売上高



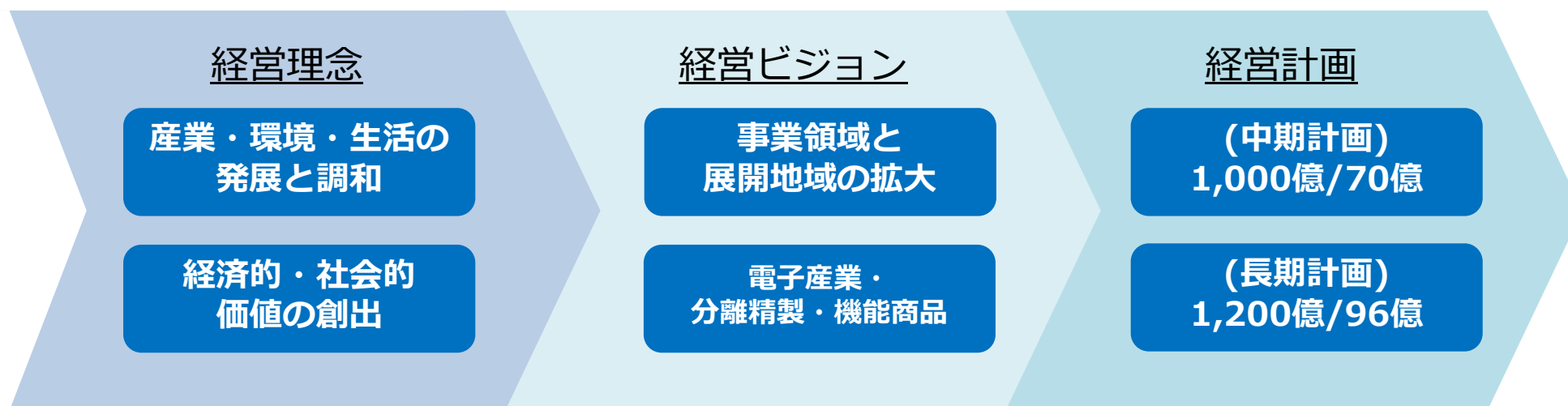
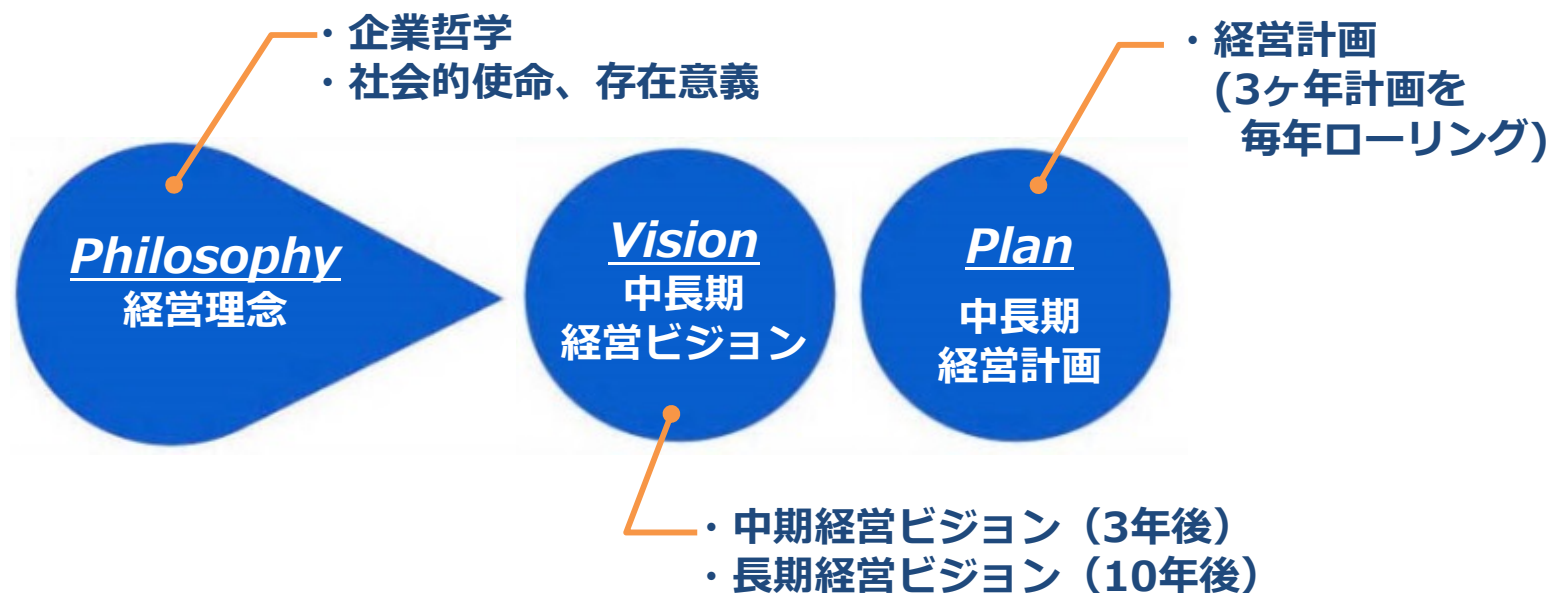
2020年3月期計画：主な指標

	2019年3月期	2020年3月期
設備投資額 (百万円)	635	800
技術研究費 (百万円)	1,823	2,100
減価償却費 (百万円)	920	1,100
有利子負債 (百万円)	13,659	15,000
従業員数 (人)	2,186	2,200
年間配当金 (円)	73	78
ROE (%)	8.4	7.8

目 次

1. 2019年3月期実績
2. 2020年3月期計画
- 3. 中長期経営計画**
4. 会社概要

経営理念と経営ビジョン・計画



オルガノグループが目指すもの

Needs & Task

社会

世界の持続可能な
発展と成長

- ・ 水/エネルギーの効率的利用
- ・ ライフサイエンスの発展
- ・ 高度IT技術の発展

オルガノ

- ・ 長期的な成長停滞
- ・ 収益性の見劣り
- ・ 株価の低迷

- ・ ポートフォリオの最適化
- ・ 事業領域/展開エリアの拡大
- ・ 株主価値の向上

我々の強み

産業・生活への幅広い実績



水処理の 総合エンジニアリング



水処理で培った先端技術



分離技術



精製技術

我々の目指すもの

オルガノの貢献分野

産業・生活・環境の
発展と調和

産業と生活に
必要・最適な水を提供

産業・技術の
発展・高度化に貢献

オルガノのありたい姿

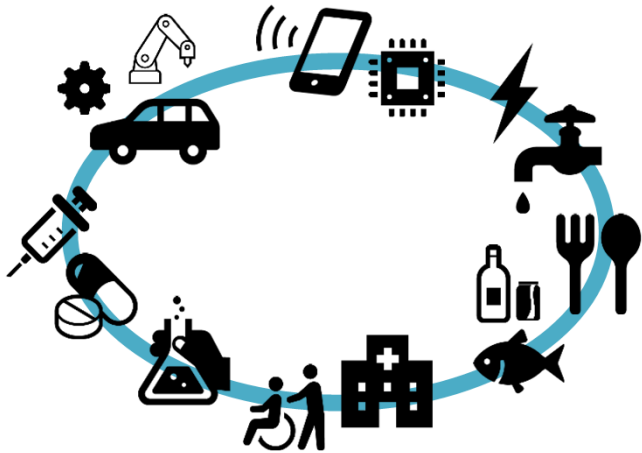
全てのステークホルダーの
パートナー企業

経済的・社会的価値
の創造

企業・株主価値
の創造

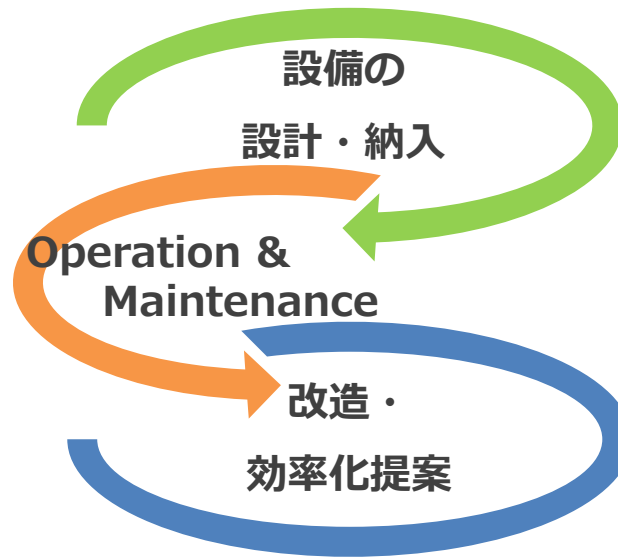
オルガノグループの強み

産業・生活への 幅広い実績



電子産業などの製造業、電力・上下水等の社会インフラ、医療・研究機関、飲食店・コンビニなど産業・生活の幅広い分野でオルガノの技術・製品が活躍しています

水処理の 総合エンジニアリング



お客様の仕様に応える各種設備の設計・納入から、メンテナンス・運転管理、機能材の提供、設備の改造・効率化の提案など水処理の総合エンジニアリングを提供しています

水処理で培った 先端技術



分離技術

- | 高分子膜
- | 無機分離膜

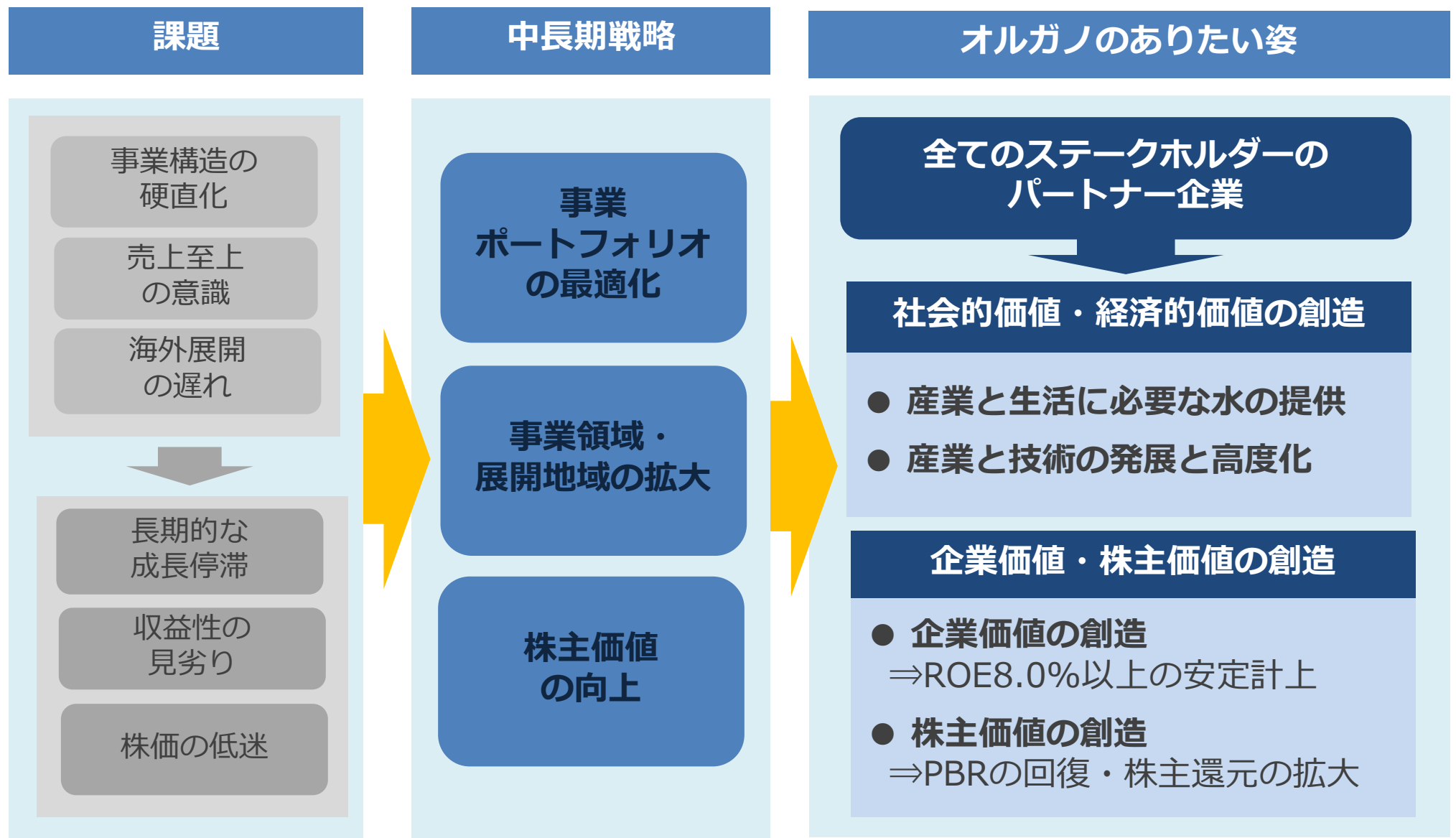


精製技術

- | イオン交換樹脂
- | キレート樹脂
- | ゼオライト

純水の製造・排水の処理に限らず、糖液や各種溶剤等の精製や排水などからの有価物（フッ素や金属など）の回収にも効果を発揮します

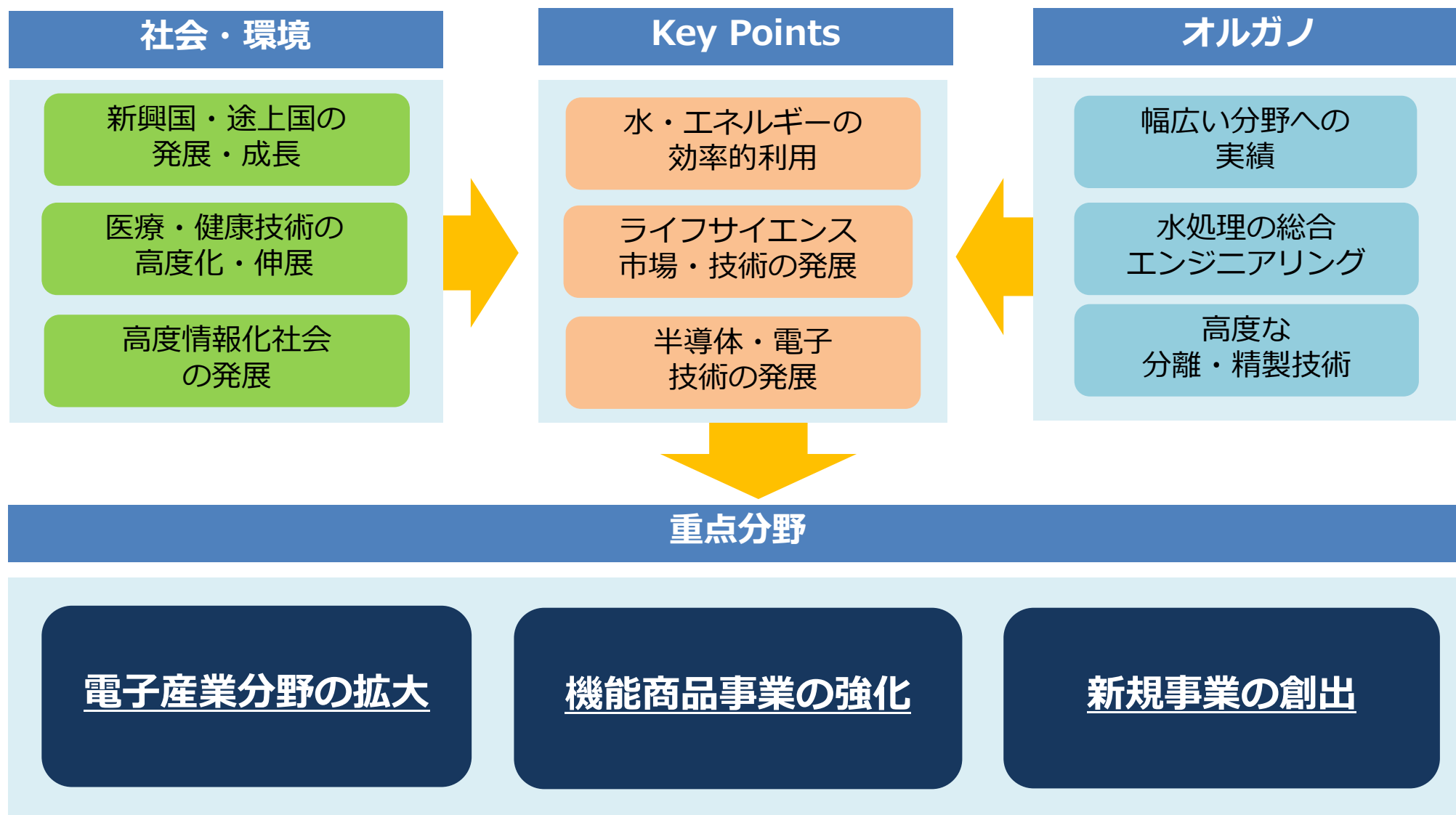
オルガノグループのありたい姿



オルガノグループの貢献分野



中長期計画：重点分野の選定



中長期計画の方向性

重点分野	～2021年度(中期計画)	～2028年度(長期計画)
電子産業 分野の拡大	<ul style="list-style-type: none">中国市場でのシェアの確立ソリューションメニュー・体制の強化	<ul style="list-style-type: none">インド市場 確立米国市場 参入半導体ウェットプロセス分野でのビジネス展開
機能商品 事業の強化	<ul style="list-style-type: none">中国・台湾市場への展開医療・研究機関向け標準型機器の拡充	<ul style="list-style-type: none">インド・東南アジア市場への展開ライフサイエンス市場に製品・技術を展開
新規事業の 創出	<ul style="list-style-type: none">リチウムイオン電池 NMP・電解液精製電子材料の高度精製	<ul style="list-style-type: none">二次電池材料の高度精製・リサイクルバイオ医薬の精製工程にクロマト装置を展開

中期・長期経営計画：目標値

中期経営計画(2019~2021)

売上高 1,000億円 以上
 営業利益 70億円 以上
 営業利益率 7.0% 以上

を達成し、安定的に**ROE 8.0%以上**
 を計上できる収益構造を確立する

長期経営計画(~2028)

売上高 1,200億円
 営業利益 96億円
 営業利益率 8.0%

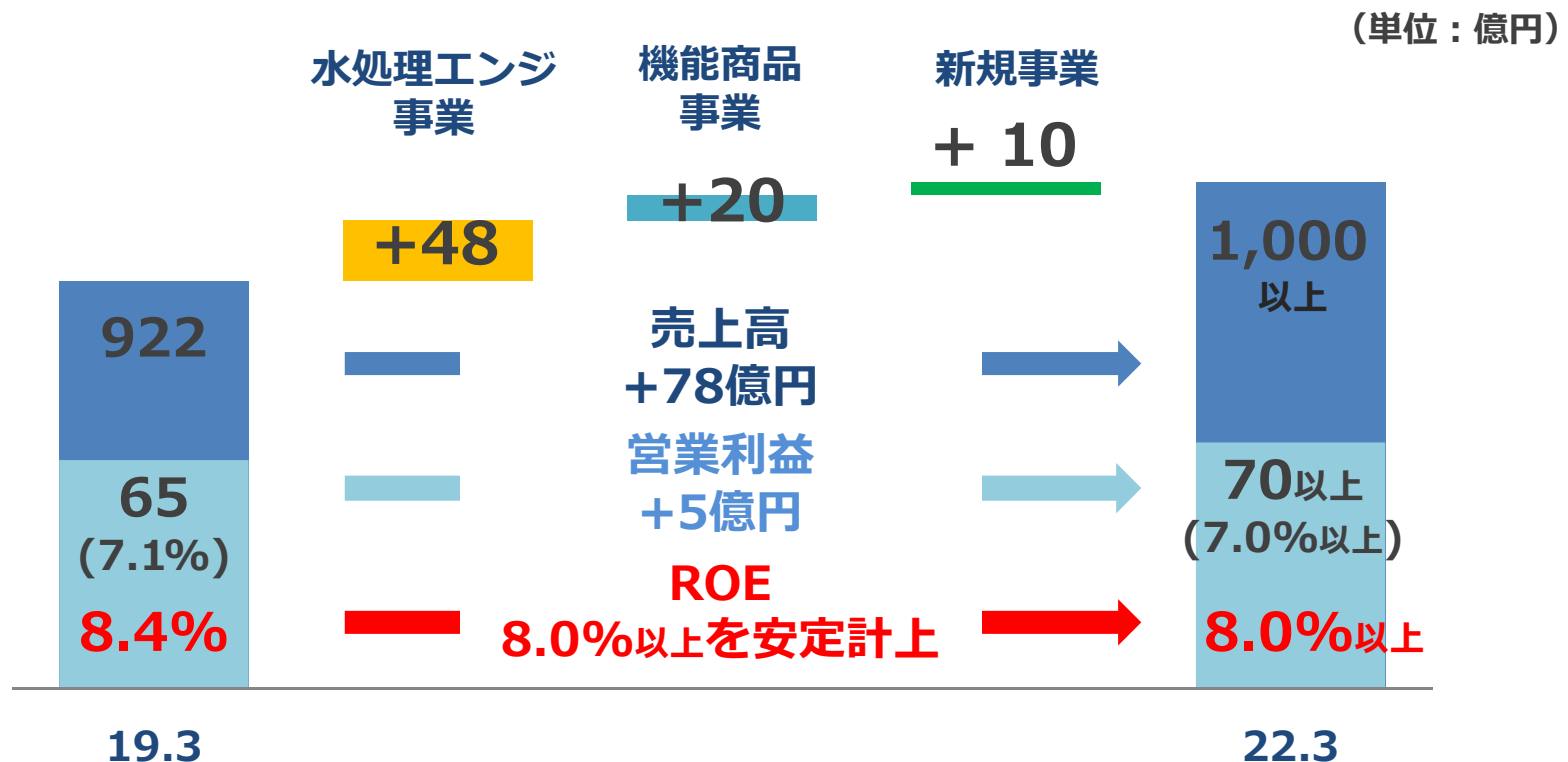
単位：億円	2019.3 実績	2020.3 計画	2022.3 中期計画	2029.3 長期計画
受注高	1,038	950	1,000~	1,200
売上高	922	960	1,000~	1,200
営業利益 (%)	65 (7.1%)	66 (6.9%)	70~ (7.0%~)	96 (8.0%)
ROE (%)	8.4%	7.8%	8.0%~	8.0%~

中期経営計画の概要

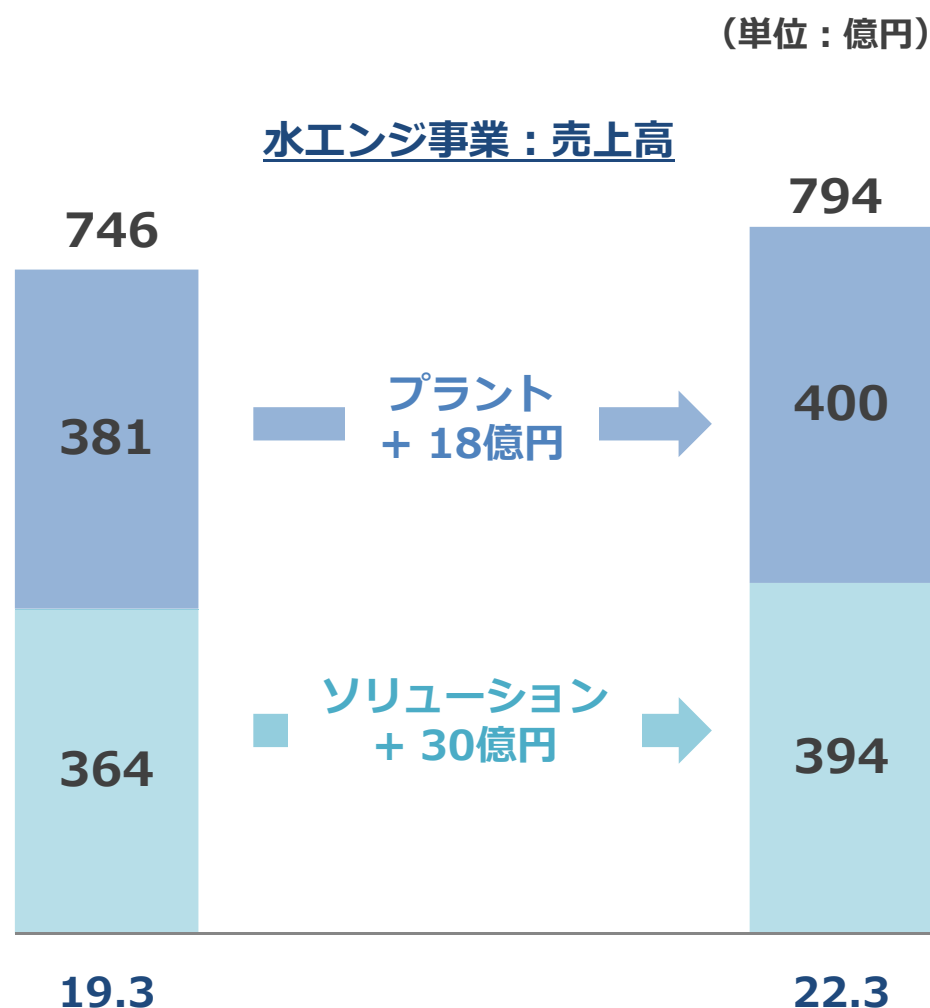
水エンジニア：電子産業中心に海外・ソリューション拡大策を推進

機能商品：標準型機器・フィルタ、水処理薬品を海外で拡販

新規事業：二次電池・バイオ医薬・電子材料分野に分離精製技術を展開



中期経営計画の概要：水エンジニアリング事業



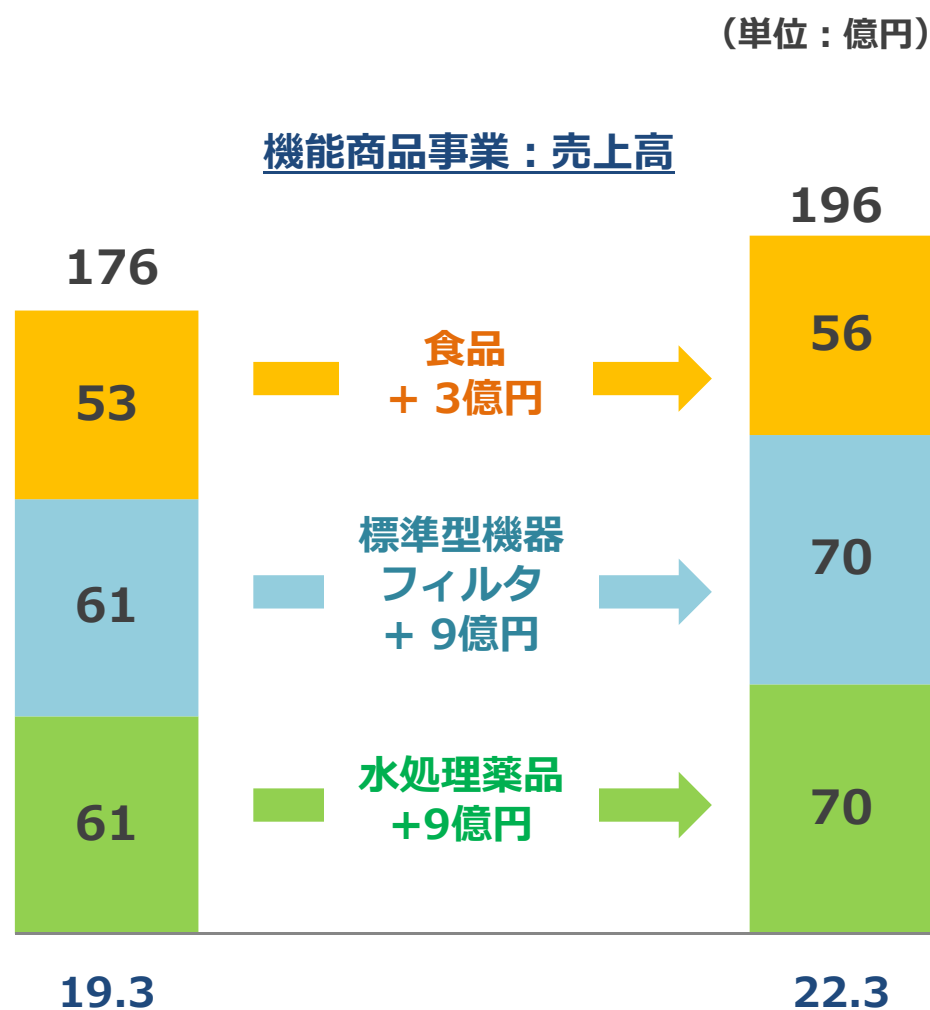
プラント

- ・ 中国など**海外の電子産業市場**中心にシェア拡大を図る
- ・ 海外の技術体制強化やエンジニアリング業務の生産性向上など事業基盤強化に取り組む

ソリューション

- ・ **海外の体制強化**を推進、特に今後メンテ需要が本格化する中国の体制を拡充
- ・ IoT技術などを活用したソリューションサービスメニューを拡充
- ・ 省エネ・省力化・廃棄物低減などを実現する設備改造・効率化提案を強化

中期経営計画の概要：機能商品事業



水処理薬品

- ・ **台湾の電子産業向け**に水処理薬品の販売ネットワークを構築
- ・ 韓国/東南アジアなどでも電子産業の大規模工場向け営業活動を強化
- ・ 社外との連携強化し新規薬品開発を推進

標準型機器・フィルタ

- ・ **中国の医療/検査機関向け**に小型純水装置の販売を開始
- ・ 中国における販売ネットワークを開拓
- ・ 海外での生産体制整備に取り組む

食品

- ・ 介護/健食等の分野に向けた顆粒技術などの加工技術の強化
- ・ 今後**高齢化を迎える中国市場**への展開を検討

中期経営計画の概要：新規事業

リチウムイオン電池向け精製設備

■ NMPリサイクル設備

中国において実プラントを用いた実証実験を予定、引き続き中国市場を中心に営業活動を展開

■ 電解液精製技術

メーカーでのラボ試験をクリアし生産ラインでの評価に移行
中国・韓国市場を中心に営業展開

バイオ医薬向け高度精製装置

■ バイオ医薬向け連続クロマト装置

バイオ（抗体）医薬品の精製工程に向けて開発を進める連続クロマト装置による生産効率の向上を確認。量産を目指した工業化に向けて海外の研究機関との連携等によりトータルシステムの開発を加速

電子材料向け高度精製処理

■ 半導体製造向け溶剤・ガスの分離精製

半導体の製造に用いられるレジスト・IPAなどの各種溶剤の高度精製（脱水・金属除去）技術を開発。米国・台湾など最先端の半導体市場を目指す。
電子材料の精製需要拡大に合わせ、当社の樹脂製造設備の能力増強中

TOPICS : 最先端半導体向け技術

半導体微細化への貢献技術



【過酸化水素モニター】

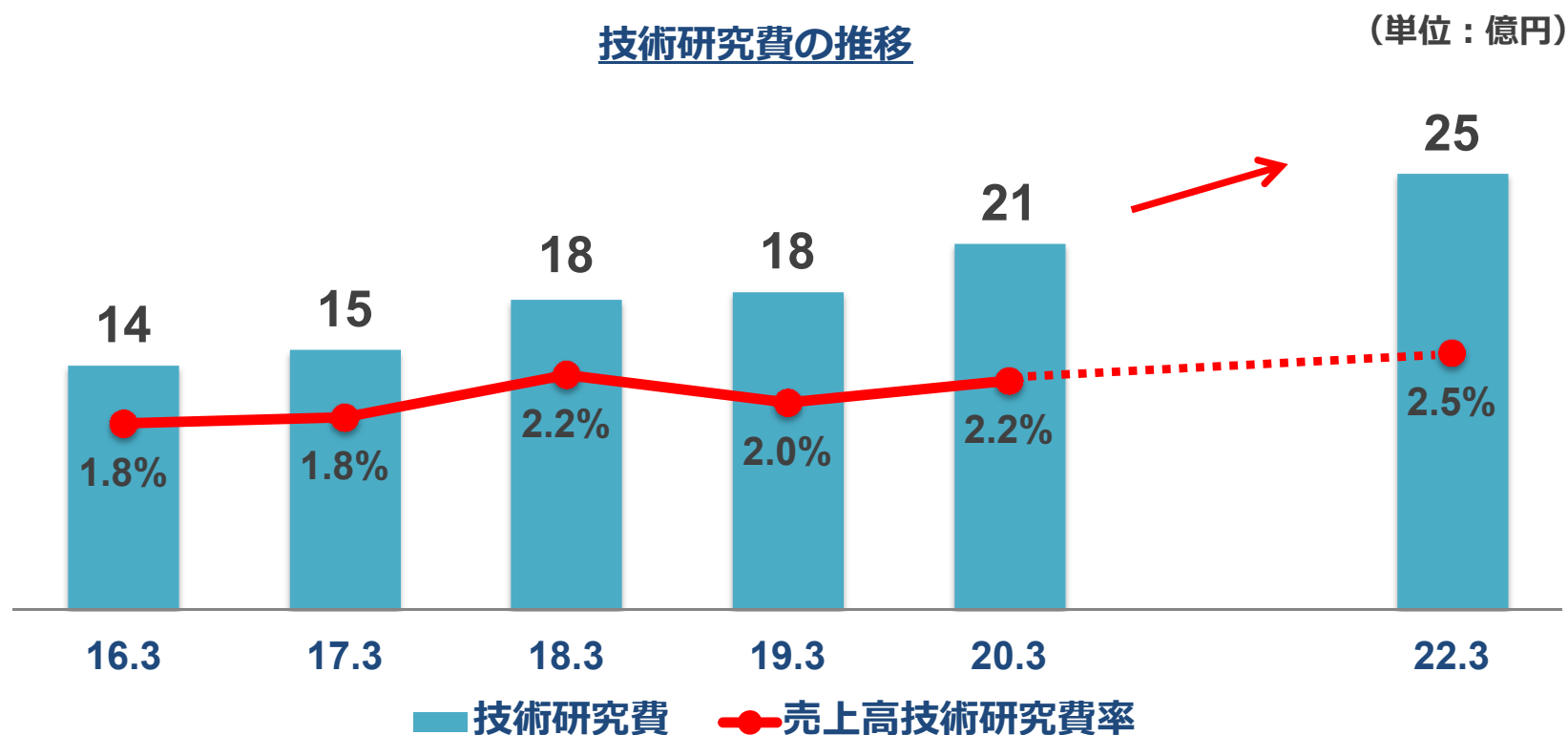
- 最先端の半導体工場向けに当社が独自開発した触媒を用いた「**過酸化水素モニター**」を開発。
半導体チップの配線不良等を引き起こす過酸化水素のリアルタイムでの測定を実現。
- 大幅に計測レベルを向上させた「**微粒子計測サービス**」を開発・展開。10 nmレベルの微粒子の形状計測・組成分析を実現。
今後は7 nmレベルの微粒子計測技術の早期確立と実用化に取り組む。

中期経営計画の概要：事業基盤の強化

海外事業基盤の強化	<ul style="list-style-type: none">・ 海外事業の技術基盤となる<u>グローバルエンジニアリングセンター</u>を設置・ 東南アジア地域現法間の連携強化、インドにおける経営・技術体制の強化
技術の進化	<ul style="list-style-type: none">・ 既存事業の<u>コア技術</u>の深化・ 新規事業創出のための<u>革新技術</u>の探索
生産性の向上	<ul style="list-style-type: none">・ <u>生産性の向上</u>と<u>働き方改革</u>・ エンジニアリングシステムやRPA等を活用した情報システム・業務プロセスの見直し

中期経営計画の概要：研究開発投資の強化

- 成長のドライビングフォースとして研究開発投資を強化
- 売上高研究費率 2.5% を目標に投資の拡大を継続
- 高度な微細化・超純度対応に向けた分離・精製・分析技術を強化

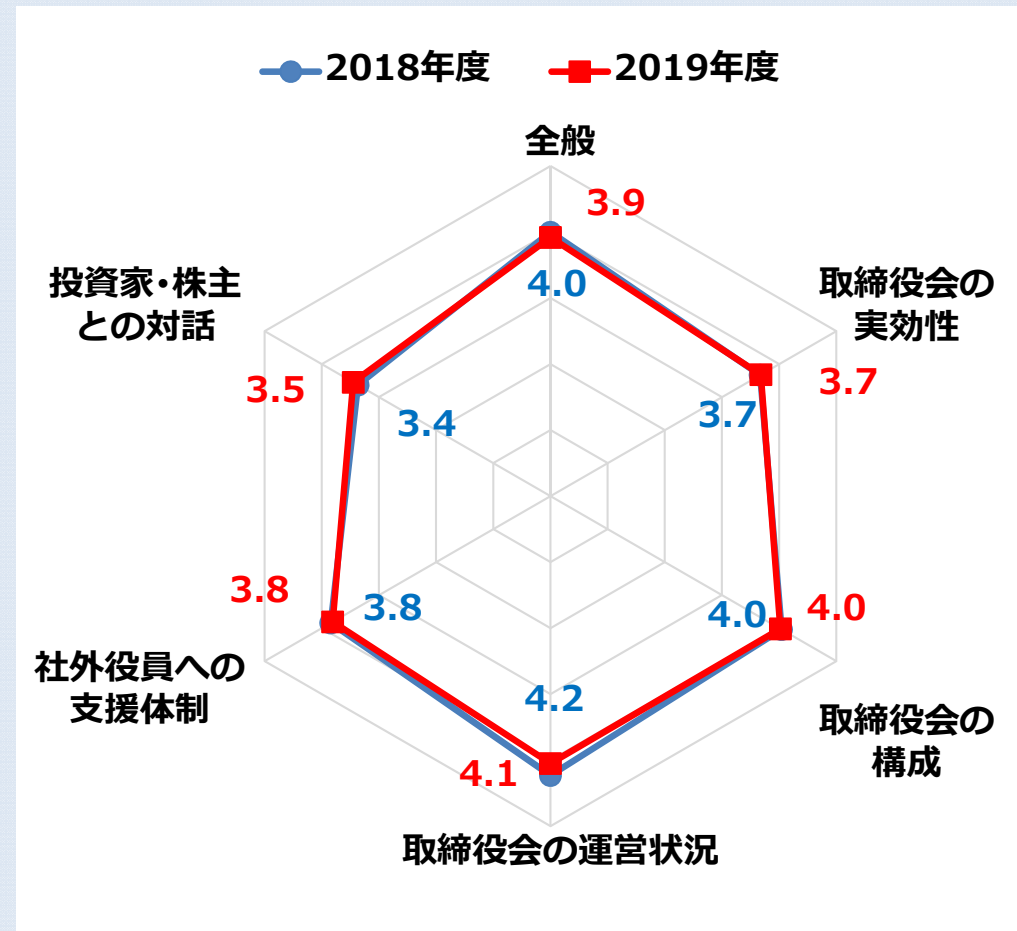


コーポレートガバナンスの改革



コーポレートガバナンス改革への取組み

■ 取締役会実効性評価における課題

- ・ 取締役会の実効性
⇒経営戦略・方針の方向性
⇒役員を選任・後継者計画
- ・ 取締役会の構成
⇒社外取締役の員数・割合
- ・ 投資家・株主との対話
⇒IR活動



コーポレートガバナンス改革への取り組み

課題	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
経営戦略・方針の方向性		理念体系の見直し 新たな経営理念・ビジョンの策定	長期経営計画策定	
役員を選任・後継者計画	社長・取締役・執行役員の資質・能力を規定		解職検討基準制定	報酬委員会を指名・報酬委員会に改編（予定）
役員報酬制度	報酬委員会設置 業績連動割合の見直し		株式報酬制度導入	
社外取締役の員数・構成				社外取締役を3名に拡充（予定）
IR活動	株主説明会開催	IR担当者増員	資料等の英文化準備	招集通知 決算短信の英文化

さらなる進化に向けて（2019.6.27～）

指名・報酬委員会の設置

取締役の指名・報酬の決定プロセスの客観性と透明性の向上、コーポレートガバナンス体制の充実に向け、報酬委員会を**指名・報酬委員会**に改編

取締役会の監督機能の強化

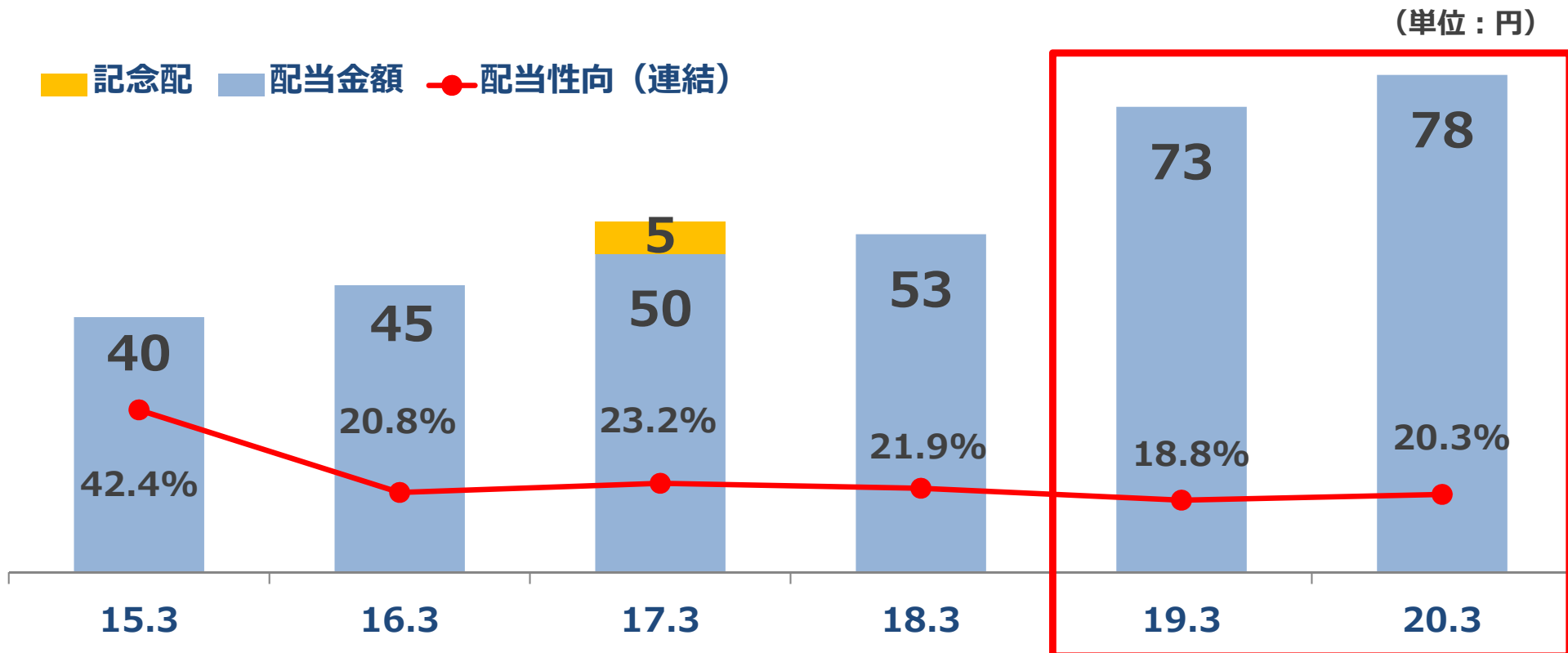
取締役会議長に非業務執行取締役が就任、**取締役会の監督機能の強化**を図る

取締役会の構成

- ・コーポレートガバナンスの観点から社外取締役を1名増員、**社外取締役3名**を含む10名体制に強化
- ・取締役10名のうち6名が博士（生物/生物活性化合物/バイオ/機能材料/有機合成）、また4名が海外でのビジネス経験を有するなど**高度な専門性と多様な経験**を有する構成に

株主還元の拡大

- 連続での増配（記念配除くと5期連続）を継続
- 安定的・継続的な配当の実施を基本方針としつつ、収益の状況に応じた利益配分に努める



目次

1. 2019年3月期実績
2. 2020年3月期計画
3. 中長期経営計画
- 4. 会社概要**

会社概要

社名	オルガノ株式会社（英名：Organo Corporation）	
本社所在地	〒136-8631 東京都江東区新砂1丁目2番8号	
設立	1946年5月1日	
代表者	代表取締役社長 鯉江 泰行	
資本金	82億2,549万9,312円	
従業員数	2,186名（連結） ※2019年3月31日現在	
主な事業内容	水処理エンジニアリング事業	プラント事業 大型水処理設備の製造販売
	ニアリング事業	ソリューション事業 設備のメンテナンス・運転管理・改造工事等
	機能商品事業	標準型水処理機器、水処理薬品、 食品添加剤の製造販売
主な事業所	本社（東京都江東区）、開発センター（相模原市）、 つくば工場（つくば市）、いわき工場（いわき市）、 北海道支店（札幌市）、東北支店（仙台市）、 関東支店（東京都江東区）、中部支店（名古屋市）、 関西支店（吹田市）、中国支店（広島市）、九州支店（福岡市）	

オルガノグループ各社

【ベトナム】
オルガノ（ベトナム）

【タイ】
オルガノ（タイランド）

【マレーシア】
オルガノ（アジア）

【インド】
ムルガツパ・オルガノ・
ウォーターソリューションズ

【シンガポール】
オルガノ（シンガポール）

【インドネシア】
ラウタン・オルガノ・ウォーター

【日本】
オルガノ
オルガノプラントサービス
オルガノエコテクノ
オルガノフードテック
オルガノアクティ
ホステック
東北電機鉄工(※)

【中国】
オルガノ（蘇州）

【台湾】
オルガノ・テクノロジー

(※)は持分法適用会社、下線は非連結子会社・関係会社

オルガノグループの歴史

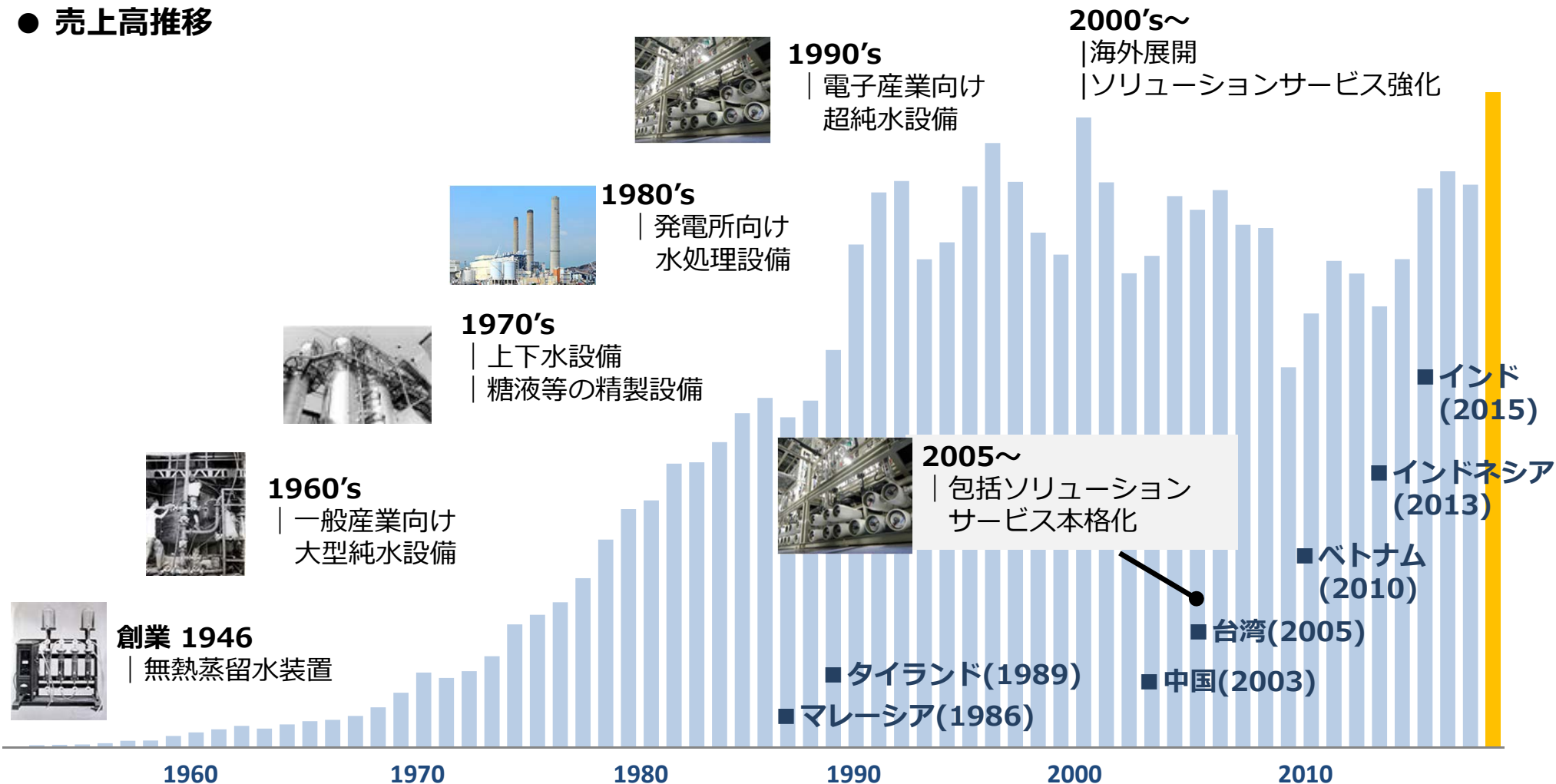
創業期

成長期

成熟期

再成長期

● 売上高推移



オルガノグループの事業

水処理エンジニア事業

ソリューション
364億円



- 消耗品交換・メンテナンス
- 運転管理・包括メンテナンス
- 改造工事
- 水処理加工受託

2019.3期
746億円

プラント
381億円



- 純水・超純水設備
- 排水処理・回収設備
- 有価物回収設備
- プロセス関連設備

機能商品事業

食品加工材
53億円



- 食品添加剤
- 食品素材

標準型機器・フィルタ
61億円



- 純水・超純水装置
- 浄水フィルタ

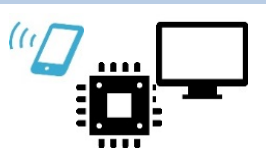
2019.3期
176億円

水処理薬品
61億円



- 排水・冷却水・洗浄・RO膜・ボイラ等処理剤

電子産業



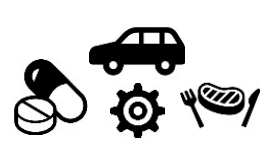
- 半導体
- FPD
- 電子部品

電力/上下水



- 発電所
- 浄水場
- 下水処理場

一般産業



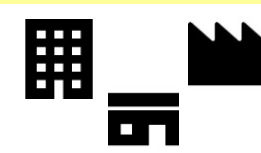
- 医薬/化粧品
- 食品/飲料
- 機械/化学

機器/フィルタ



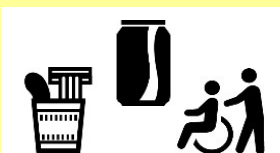
- 医療/研究
- 各種製造業
- 飲食/コンビニ

水処理薬品



- 各種製造業
- ビル/商業施設

食品加工材



- 食品加工
- 飲料製造
- 介護/健食

オルガノ株式会社



お問合せ先

経営統括本部 経営企画部

TEL : 03-5635-5111 / FAX : 03-3699-7240

ホームページ <https://www.organo.co.jp/>

問い合わせフォーム <https://www.organo.co.jp/contact/input/>

本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。